

2. 南箕輪村の特性と課題

2-1. 南箕輪村の概要

(1) 位置・地勢

本村は、長野県上伊那圏域の北西部に位置し、40.99 km²の面積を有しており、村域の東側の市街地と、西側の山岳地帯の飛地で、およそ半々に分かれています。東は天竜川を隔てて伊那市、西は経ヶ岳、黒沢山を境に塩尻市、辰野町、南は伊那市、北は箕輪町と接しています。西に中央アルプス、東に南アルプスを望み、伊那谷の中で一番広い平地の中心に位置しており、経ヶ岳山麓を扇頂部とする広大な扇状地には、緑濃い田園と畑作地帯が広がり、伊那谷有数の美しい風景を形成しています。

また、中央自動車道等の高速交通網の整備により、東京まで約3時間・名古屋まで約2時間30分の位置にあります。権兵衛トンネルの開通により、これまで車で1時間30分を要していた木曽地域と南箕輪村が30分で通行できるようになり、各所へのアクセスの利便性が向上しています。また、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道開通を見据え、広範囲な交流促進や発展が期待されています。

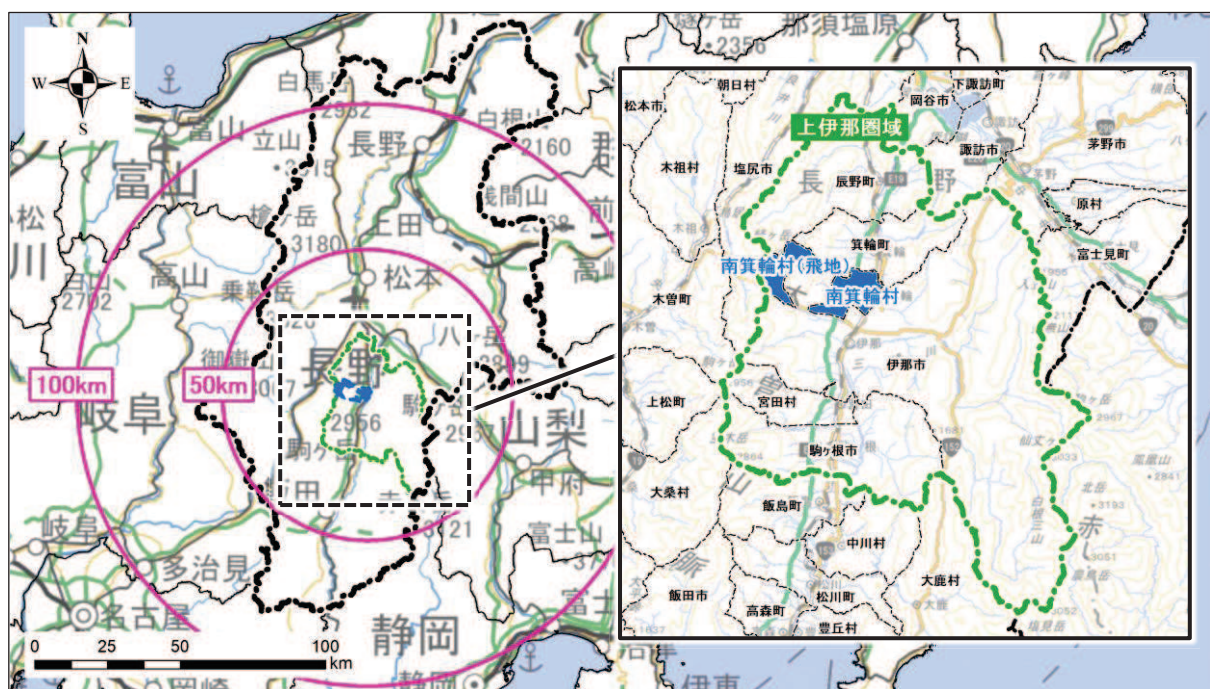


図 2-1 南箕輪村の位置

(2) 沿革

明治8年(1875年)に久保村・大泉村・北殿村・南殿村・田畑村・神子柴村の6村が合併し、箕輪郷の南に位置することから、「南箕輪村」と命名しました。当時、塩ノ井と沢尻は久保村に属していましたが、明治22年(1889年)に区制が施行され、8区となりました。昭和21年(1946年)には、戦後の開拓により北原・大芝・南原の3区が加わり、昭和50年(1975年)に住宅団地造成により中込区が加わり、現在の12区となりました。

明治8年(1875年)に南箕輪村としてスタートして以来、合併することなく今日に至っており、令和7年(2025年)2月18日には村政150周年を迎えました。

(3) 歴史

旧石器時代～古墳時代

本村では、神子柴遺跡から、国の重要文化財に指定されている「神子柴型石器」が出土したことから、旧石器時代には人類の営みがあったことがうかがえます。縄文時代中期(約 4,000 年～5,000 年前)には、「人体文付有孔罎付土器」のような精巧な土器を作る人々が各地で生活していたと思われます。やがて食糧生産が盛んになり人口が増えると、生活しやすく水を確保できる場所を中心に各地に集落が形成されました。

<神子柴型石器>



出典：南箕輪村の史跡の話

<人体文付有孔罎付土器>



©小川忠博

出典：南箕輪村教育委員会

平安時代～江戸時代

平安時代のものとされる八幡宮上遺跡から出土した「蔵骨器」には火葬骨が入っていたことから、この時代には小豪族と呼ばれる人がいたとされます。戦国時代の小城址からは、各地に小領主のような人がおり、集落生活が営まれていたことがうかがえます。集落周辺は耕作地として徐々に開墾され、農地の面積も広がっていきました。

また、物資や人々の往来も盛んになり、塩尻から善知鳥峠を経て伊那谷を南下する伊那街道、その西側を並走する春日街道、木曽地域と伊那を結ぶ権兵衛街道、仲仙寺への参詣道であったはびろ道が徐々に整備され、様々な街道が交わる地域として発展しました。



図 2-2 南箕輪村周辺の街道

明治時代～現代

明治 6 年(1873 年)の地租改正により、広大な入会山林原野が分割され、官有地・民有地となりました。また、耕作用具の発達や農業技術の飛躍的な向上により、山林原野は水田に変わり、農地が更に増加していきました。北原区・大芝区・南原区等の集落に近い平坦な山林は村有となり、繰り返し植林を行い、自然豊かな森林を育んできました。昭和 20～30 年代には木材が村の財政を支えていましたが、昭和 40 年代には外国産の木材に押され、山林経営の見直しが必要となりました。その結果、当時の大芝村有林を公園化する構想が練られ、昭和 53 年(1978 年)には大芝公園が都市計画公園となりました。その後も新しい住宅地が形成され、人口が増加し続けてきました。

<大芝公園の森林>



(4) 地形

本村の地形は、ほぼ東西に傾斜した扇状地で、村の東側には天竜川が流れ、JR 飯田線や国道 153 号が南北に縦断しています。

また、JR 飯田線の西側には広範囲にわたって河岸段丘（段丘林）が分布しており、その西側には東西方向に傾斜した扇状地が広がっていて、優良農地となっています。

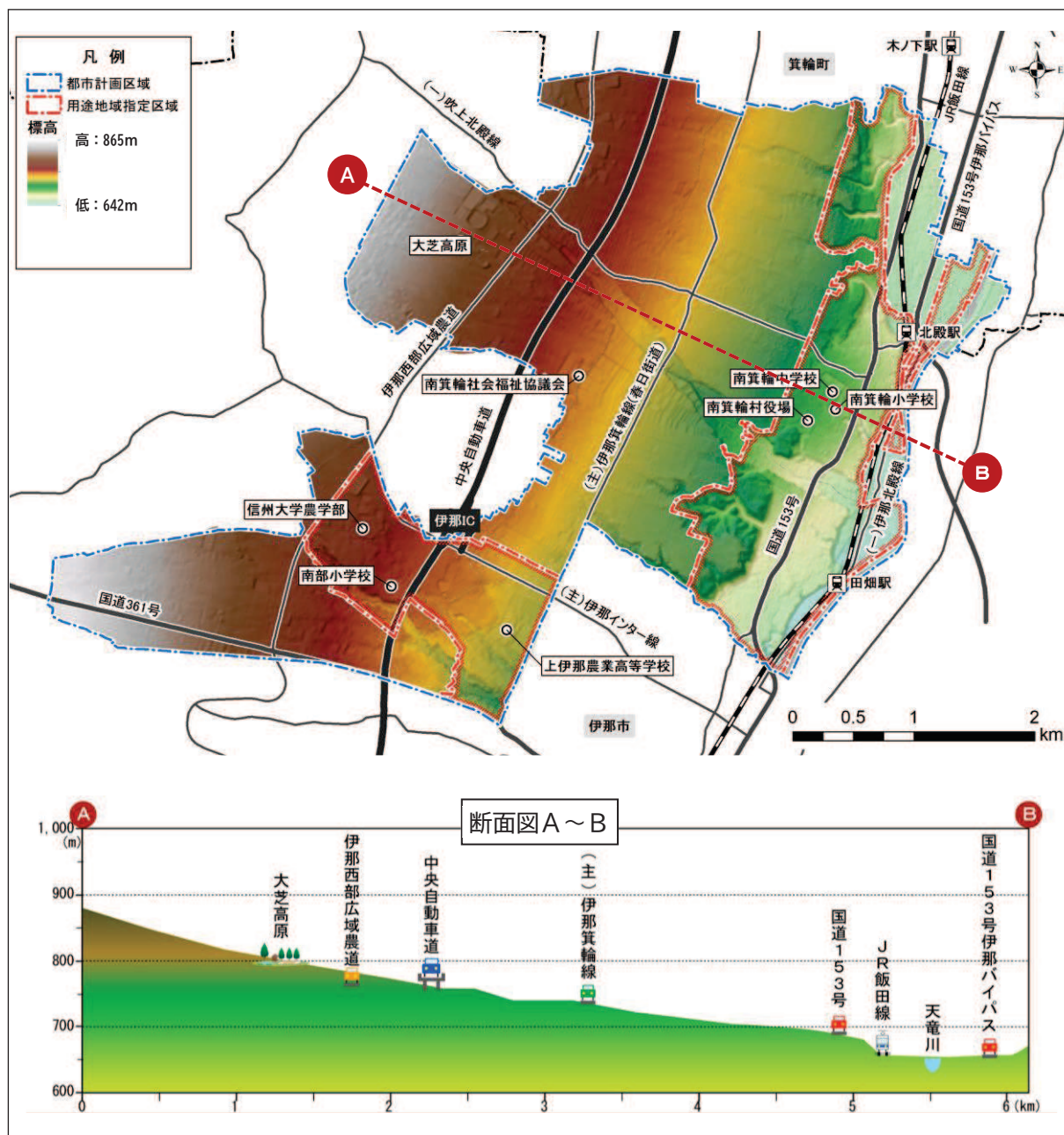


図 2-3 南箕輪村の地形

出典：国土地理院「地理院タイル(色別標高図、陰影起伏図)」再編加工

2 - 2. 南箕輪村の都市計画の概要

(1) 都市計画区域

本村の都市計画区域は、昭和9年（1934年）12月に「伊那都市計画区域」の一部として指定され、飛地を除く南箕輪村全域（2,079ha）に都市計画区域が指定されています。

(2) 用途地域

用途地域とは、都市計画区域内において用途の混雑を防ぐため、住居・商業・工業などの市街地の大枠としての土地利用を定めるものです。本村の用途地域は昭和53年（1978年）1月に当初決定され、平成29年（2017年）3月には都市計画道路の廃止・変更に伴う用途地域の変更が行われ、現在、637haが指定されています。用途地域の内訳は、住居系520ha（約81.6%）、商業系11ha（約1.7%）、工業系106ha（約16.6%）となっています。

表 2-1 用途地域の指定状況

用途地域							合計
住居系				商業系	工業系		
第一種 低層住居 専用地域	第一種 中高層住居 専用地域	第一種 住居地域	準住居地域	近隣商業 地域	準工業地域	工業専用地域	
124 ha	115 ha	264 ha	17 ha	11 ha	93 ha	13 ha	637 ha
520 ha				11 ha	106 ha		
81.63%				1.73%	16.64%		

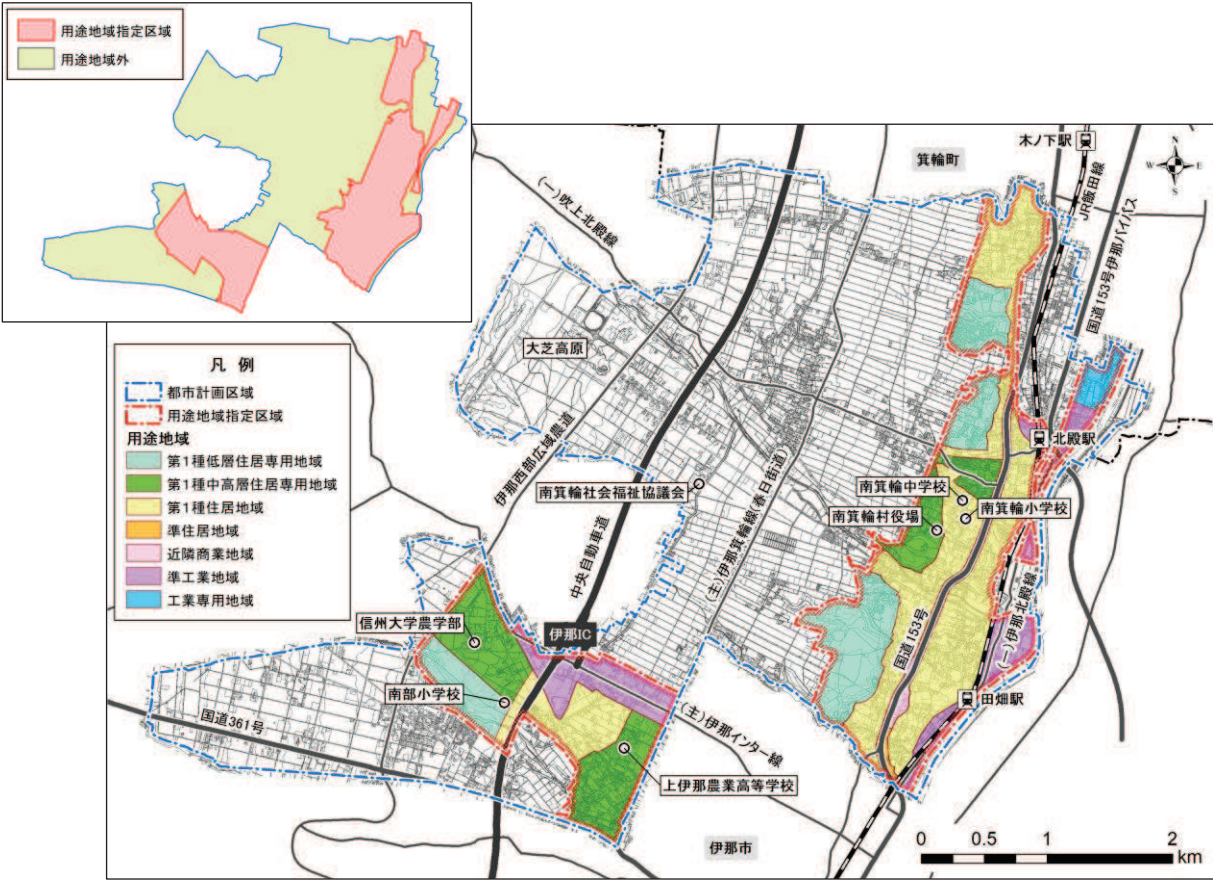


図 2-4 用途地域の指定状況

出典：南箕輪村「令和5年度都市計画基礎調査」再編加工

(3) 都市計画道路

都市計画道路とは、都市計画法に基づいて整備される道路であり、都市の骨格を形成する基幹的な都市施設です。

本村の都市計画道路は、昭和 53 年（1978 年）に 14 路線、平成 8 年（1996 年）に（都）伊那バイパス線が計画決定されました。その後、平成 29 年（2017 年）の都市計画道路の廃止・変更により、現在は 10 路線、総延長 20.25km が計画決定されています。

このうち、（都）伊那バイパス線の全線、及び（都）環状北線、（都）塩ノ井線、（都）田畑大芝線、（都）北殿大泉線の一部が改良済であり、改良済延長は 5.34km、改良率は 26.4%となっています。これは、県内平均の 50.2%※を大きく下回る水準となっているため、整備率改善とネットワークの機能強化に向けた都市計画道路の見直し及び計画的整備の推進が求められます。

※ 長野県「2024 年 長野県の都市計画 資料編」（都市計画区域別の都市計画道路改良率）

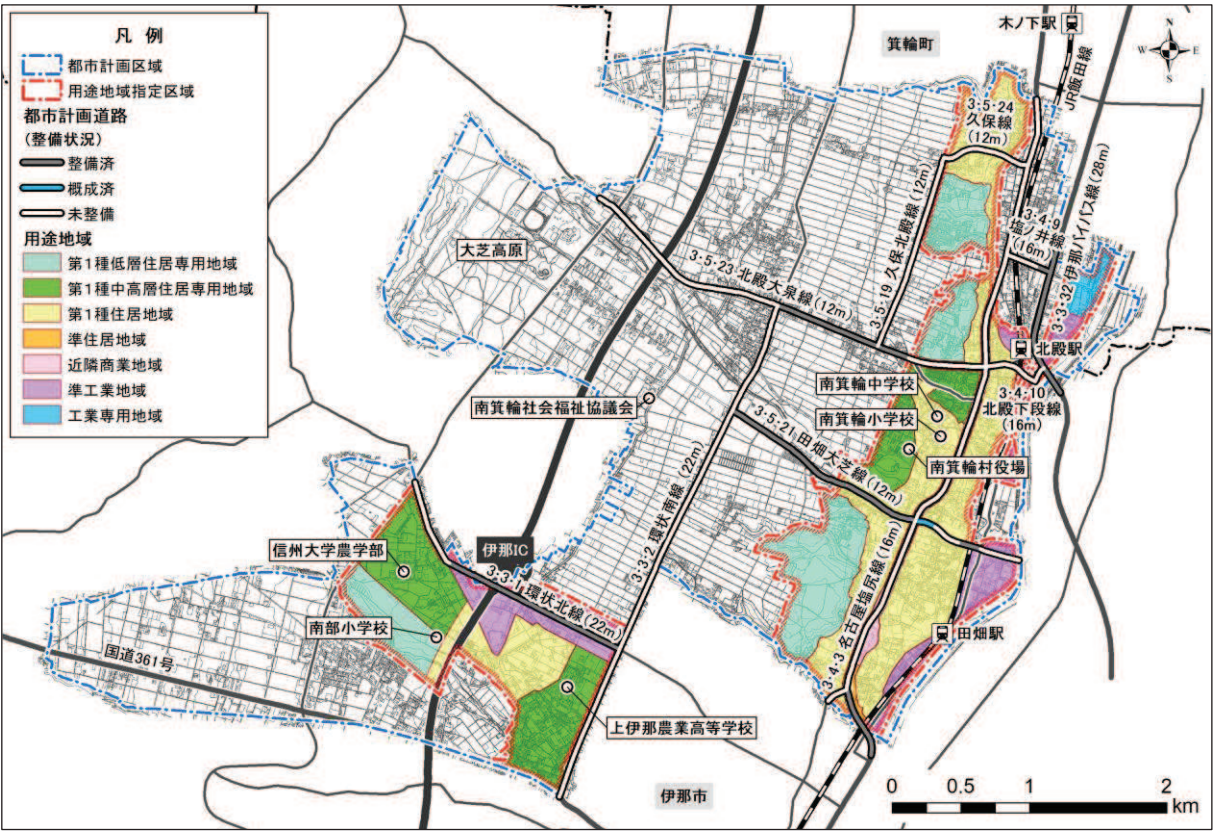


図 2-5 都市計画道路の整備状況

出典：南箕輪村「都市計画道路台帳(R7.1.16 現在)」再編加工

表 2-2 都市計画道路一覧

路線番号	名称	幅員(m)	延長(m)	改良済延長(改良率)
3・3・1	環状北線	22	1,900	1,440m (75.8%)
3・3・2	環状南線	22	3,950	—
3・4・3	名古屋塩尻線	16	4,820	—
3・4・9	塩ノ井線	16	320	96m (30.0%)
3・4・10	北殿下段線	16	120	—
3・5・19	久保北殿線	12	1,460	—
3・5・21	田畑大芝線	12	2,410	1,720m (71.4%)
3・5・23	北殿大泉線	12	3,610	1,120m (31.0%)
3・5・24	久保線	12	700	—
3・3・32	伊那バイパス線	28	960	960m (100%)
計15路線		—	20,250	5,336m (26.4%)

出典：南箕輪村「都市計画道路台帳(R7.1.16 現在)(延長は村内分)」再編加工

(4) 公園

本村には、都市計画決定された都市計画公園4箇所の他に、村公園5箇所、各区が管理する地区公園10箇所、計19箇所の公園があります。

都市計画公園は、昭和53年（1978年）に総合公園として大芝公園、昭和59年（1984年）に街区公園として田畑児童公園、昭和63年（1988年）に神子柴公園と大泉公園が計画決定され、いずれも整備が完了しています。

また、大芝公園は南箕輪村地域防災計画に位置づけられた広域防災拠点としての役割を果たしており、平成30年（2018年）には大芝公園を含む「大芝高原」が道の駅に登録され、機能向上に向けた施設整備を進めています。

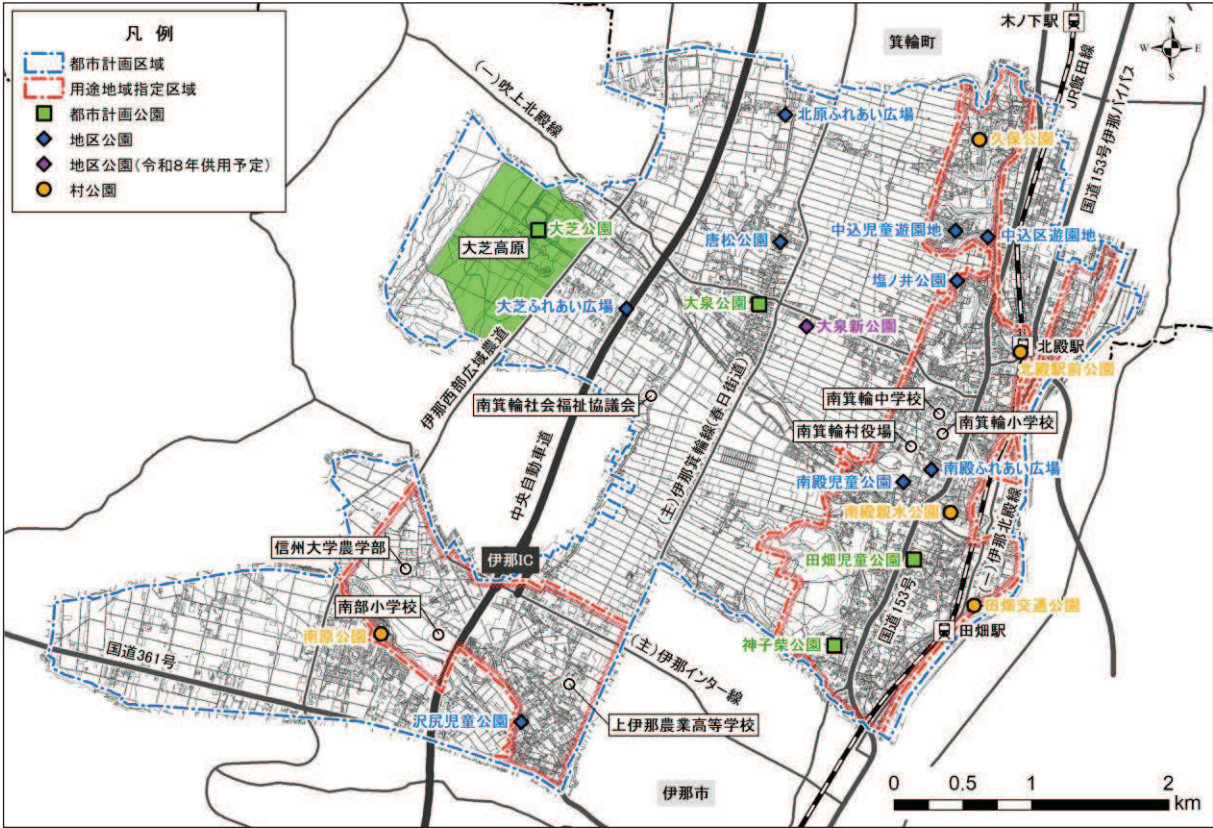


図 2-6 公園の整備状況

出典：南箕輪村「南箕輪村内の公園位置図、公園一覧」再編加工

表 2-3 公園一覧

種類		名 称
都市計画公園	総合公園	大芝公園
	街区公園	田畑児童公園、神子柴公園、大泉公園
地区公園		中込児童公園、中込区遊園地、塩ノ井公園、南殿児童公園、南殿ふれあい広場、沢尻児童公園、唐松公園、大芝ふれあい広場、北原ふれあい広場、大泉新公園
村公園		久保公園、北殿駅前公園、南殿親水公園、田畑交通公園、南原公園

出典：南箕輪村「公園一覧」再編加工

令和5年（2023年）3月末時点での水洗化率（処理区域内人口に対する水洗化人口の割合）は約95%となっており、村内の公共下水道（污水）の整備はおおむね完了しています。

また、公共下水道事業計画区域外の地域については、個人設置型浄化槽により生活排水を適切に処理していく必要があります。

下水道事業は平成４年（１９９２年）に事業着手され、古い管路・施設は整備から３０年以上経過しています。

上下水道共通して、老朽化した管路等の計画的な更新及び耐震化を進めることが求められています。

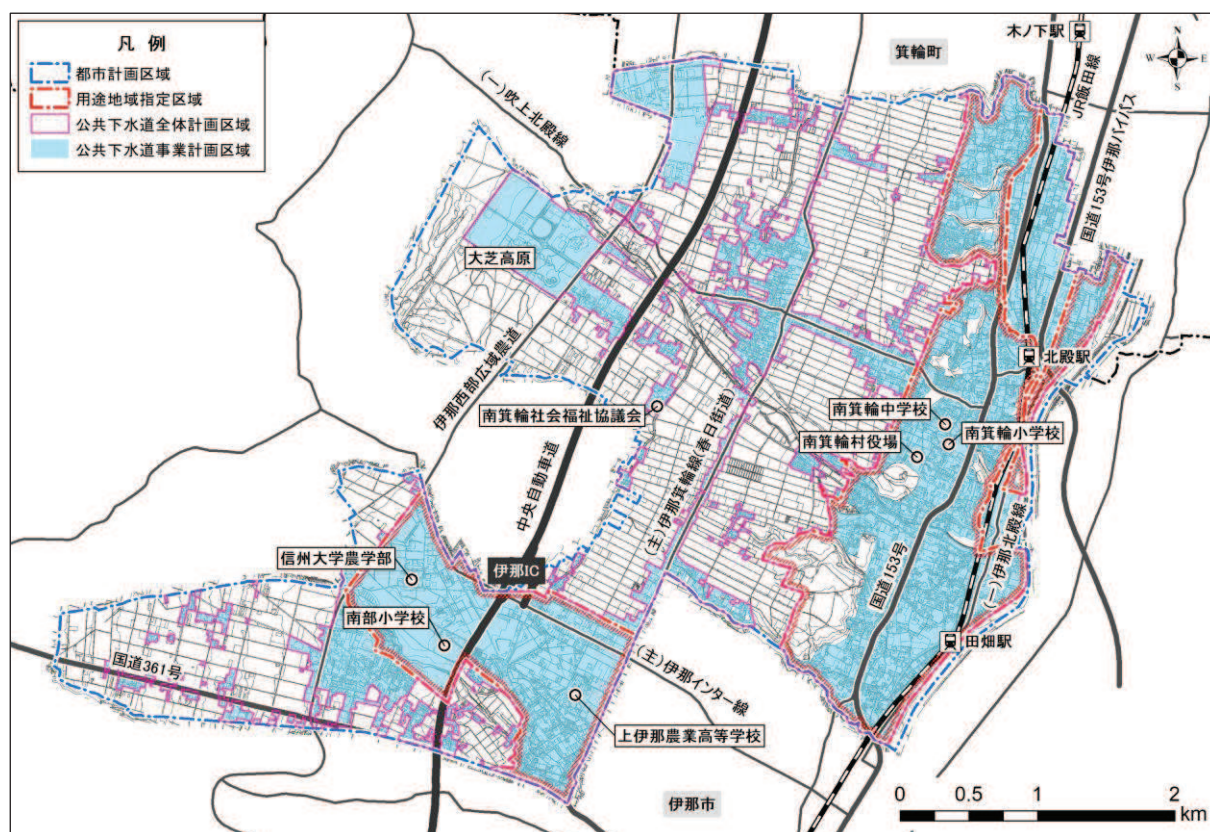


図 2-7 公共下水道全体計画区域、事業計画区域の状況

出典：南箕輪村「下水道計画一般図(汚水)(令和3年2月12日時点)」再編加工

(6) その他の都市施設

その他の都市施設としては、「汚物処理場」と「ごみ焼却場」が都市計画決定されていますが、各施設は伊那市が分担している状況です。

2-3. 分野別の特性と課題

(1) 社会環境

1) 総人口・年齢3区分別人口の推移・見通し

本村の総人口は増加傾向にあり、直近の令和2年国勢調査による総人口は15,797人となっています。国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）による将来推計人口をみると、令和17年（2035年）の16,464人をピークに総人口が減少に転じると予測されています。また、老年人口割合（65歳以上人口の割合）をみると、令和2年（2020年）の23.6%に対して、令和27年（2045年）には31.1%となり、割合が7.5ポイント増加すると予測されており、将来的な人口減少・高齢化への対応が求められます。

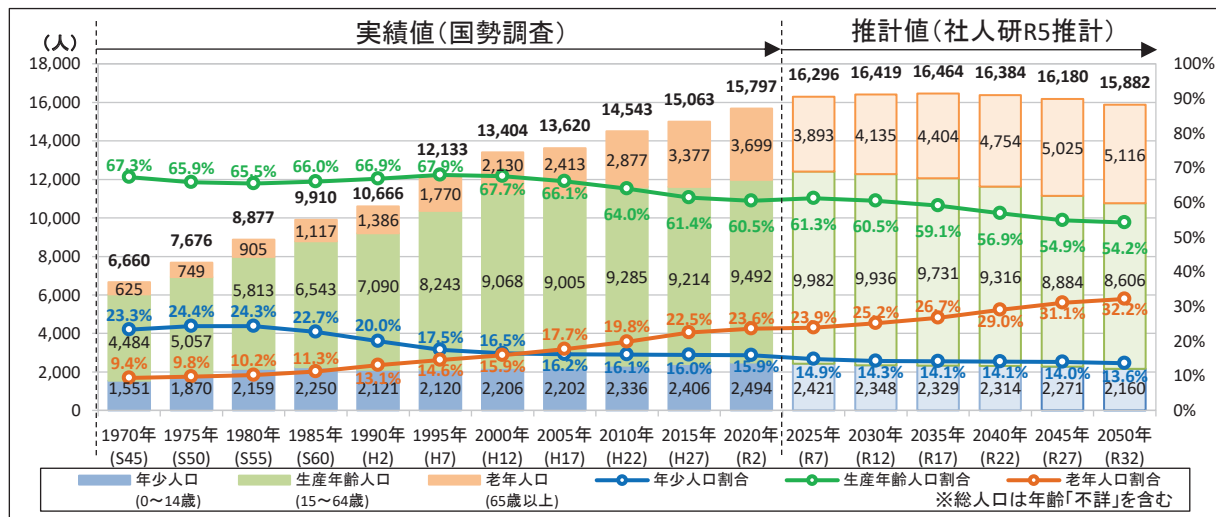


図 2-8 総人口・年齢3区分別人口の推移

出典：【1970～2020年】総務省統計局「国勢調査」再編加工

【2025～2045年】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」再編加工

2) 年齢階級別人口(人口ピラミッド)の変化

本村の令和2年国勢調査及び社人研による令和27年における年齢階級別人口の変化をみると、令和2年（2020年）では、生産年齢人口（15～64歳）が多く、「星型」の形状となっています。しかし、25年後の令和27年（2045年）には、「つぼ型」の形状となり、年少人口（15歳未満）や生産年齢人口（15～64歳）が減少し、老年人口（65歳以上）が増加するものと予測されます。

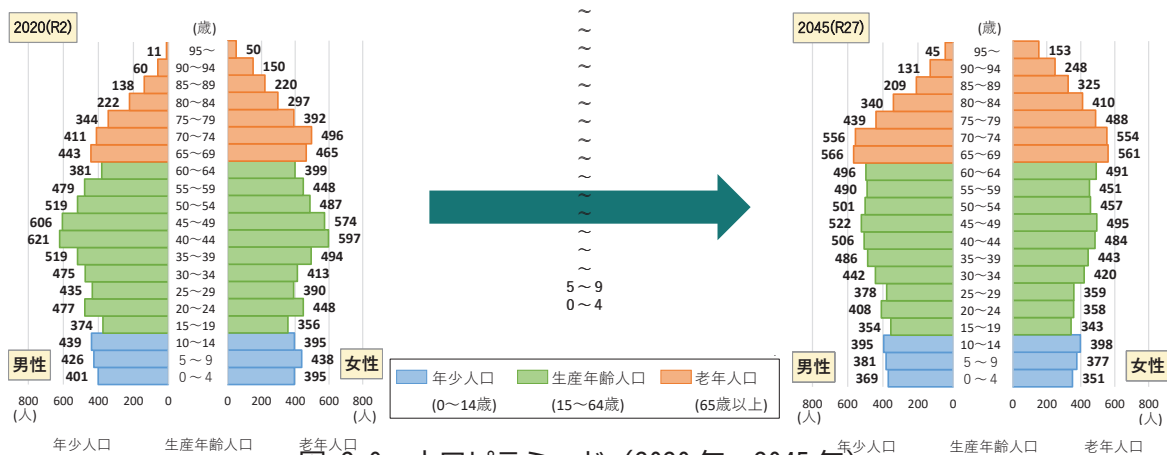


図 2-9 人口ピラミッド (2020年・2045年)

出典：【2020年】総務省統計局「国勢調査」再編加工

【2045年】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」再編加工

3) 区域別人口の推移

本村の令和2年国勢調査による区域別人口をみると、用途地域指定区域内の人口は8,687人、人口密度は13.6人/ha（8,687人/637ha）で、直近20年間は横ばい傾向となっています。また、用途地域外の人口は7,110人、人口密度は4.9人/ha（7,110人/1,442ha）で、直近20年間は増加傾向となっています。

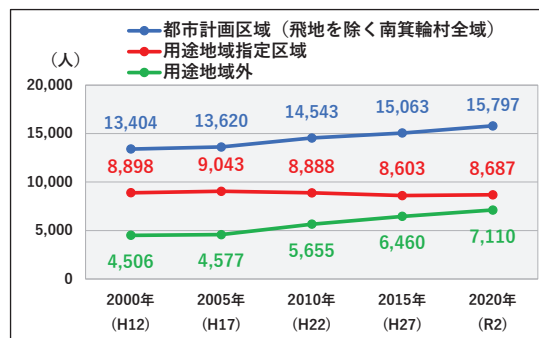


図 2-10 区域別人口の推移

出典：南箕輪村「令和5年度都市計画基礎調査(国勢調査)」再編加工

4) 250mメッシュ別人口増減数・人口密度分布の見通し

本村の250mメッシュ別の人口増減数の見通しをみると、令和2年（2020年）から令和27年（2045年）の25年間で用途地域指定区域内の国道153号沿道エリアで特に人口減少が進行すると予測されます。また、用途地域指定区域内の信州大学農学部、上伊那農業高等学校の周辺や、用途地域外において、人口が増加傾向のエリアのまとまりがみられます。

令和2年（2020年）から令和27年（2045年）の人口密度分布の見通しをみると、用途地域指定区域内において人口密度が低下するメッシュが一部みられますが、比較的人口密度の高いメッシュのまとまりはおおむね20年後においても維持されるものと予測されます。

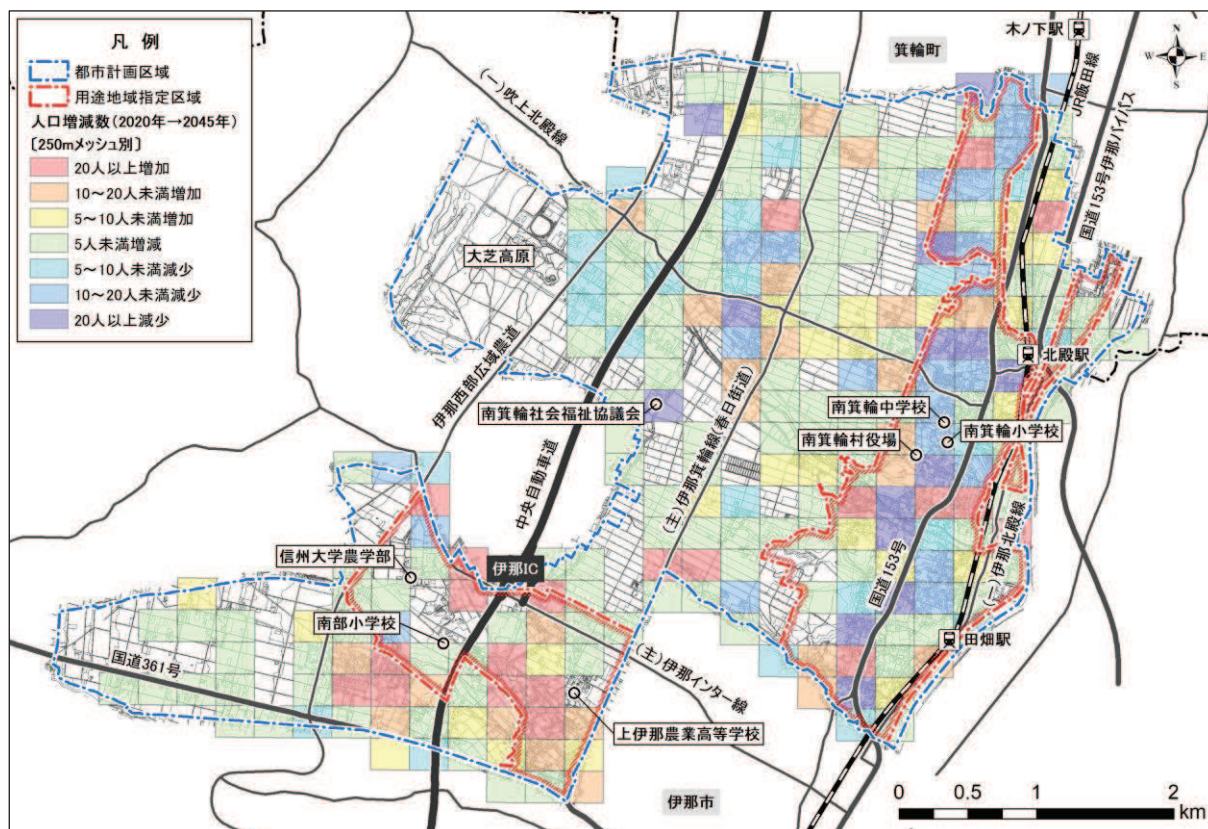


図 2-11 250mメッシュ別人口増減数の見通し（2020年→2045年）

出典：【2020年】総務省統計局「令和2年国勢調査に関する地域メッシュ統計」再編加工

【2045年】国土数値情報（250mメッシュ別将来推計人口データ(R6国政局推計※)）再編加工
 ※社人研「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」に準拠したメッシュ別将来推計人口

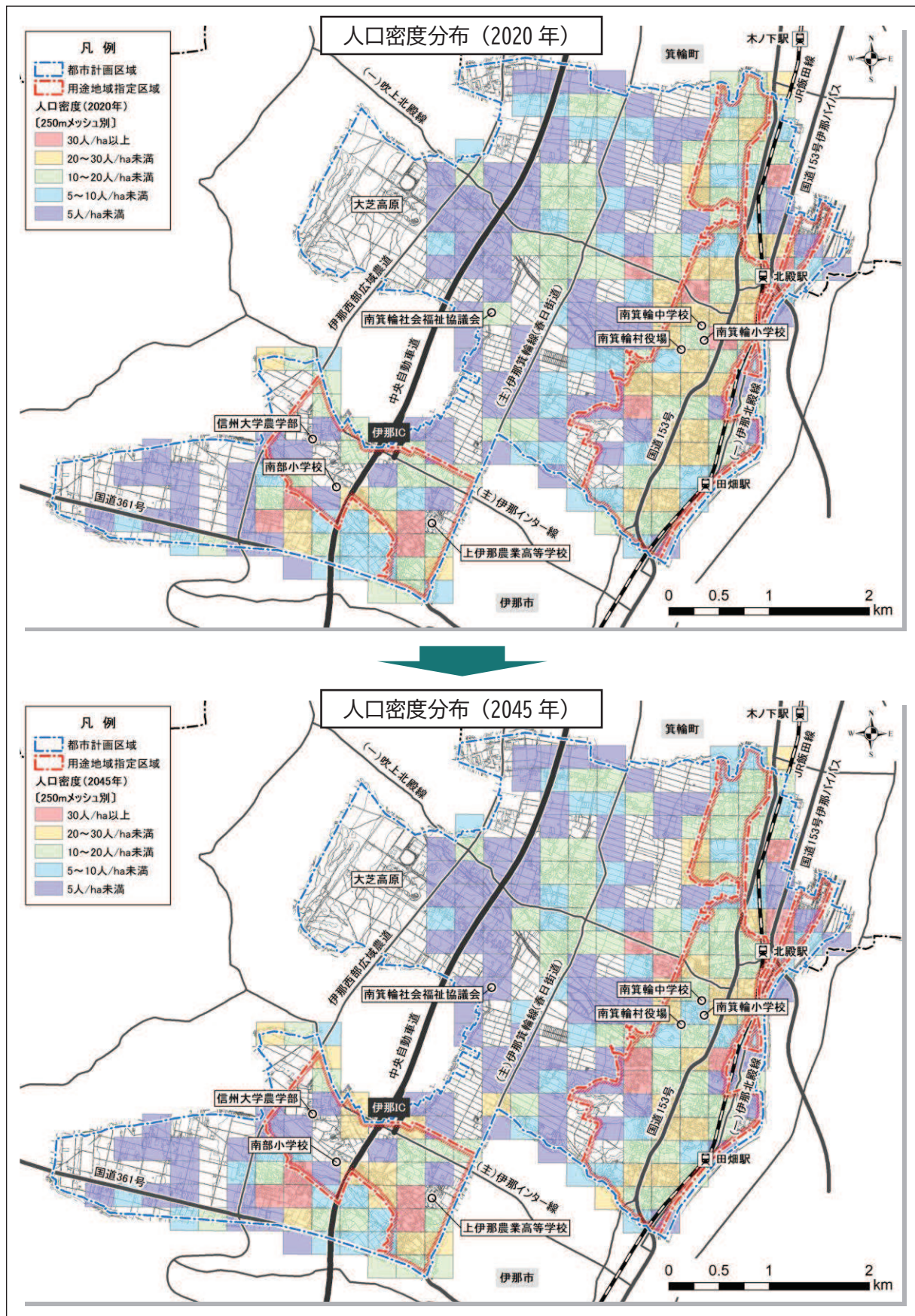


図 2-12 250mメッシュ別人口密度分布の見通し(2020年→2045年)

出典：【2020年】総務省統計局「令和2年国勢調査に関する地域メッシュ統計」再編加工

【2045年】国土交通省「国土数値情報(250mメッシュ別将来推計人口データ(R6国政局推計*))」再編加工

※社人研「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」に準拠したメッシュ別将来推計人口

5) 通勤・通学流動

本村の令和2年国勢調査による通勤流動をみると、流入者数は3,744人、流出者数は5,180人で、流出超過となっており、流入元・流出先は、伊那市、箕輪町、辰野町、駒ヶ根市などの周辺市町村が多くを占めています。

また、通学流動をみると、流入者数が318人、流出者数が418人で流出超過となっており、流入元・流出先は、通勤流動と同様に伊那市、箕輪町、辰野町、駒ヶ根市などの周辺市町村が多くを占めています。

通勤・通学ともに流出超過となっていることから、本村は周辺市町村のベッドタウンとしての役割を果たしていると考えられるため、若年層・生産年齢人口の維持・確保や、若者・子育て世代の定住促進、周辺広域圏との生活・経済的結びつきの強化と利便性の向上が求められます。

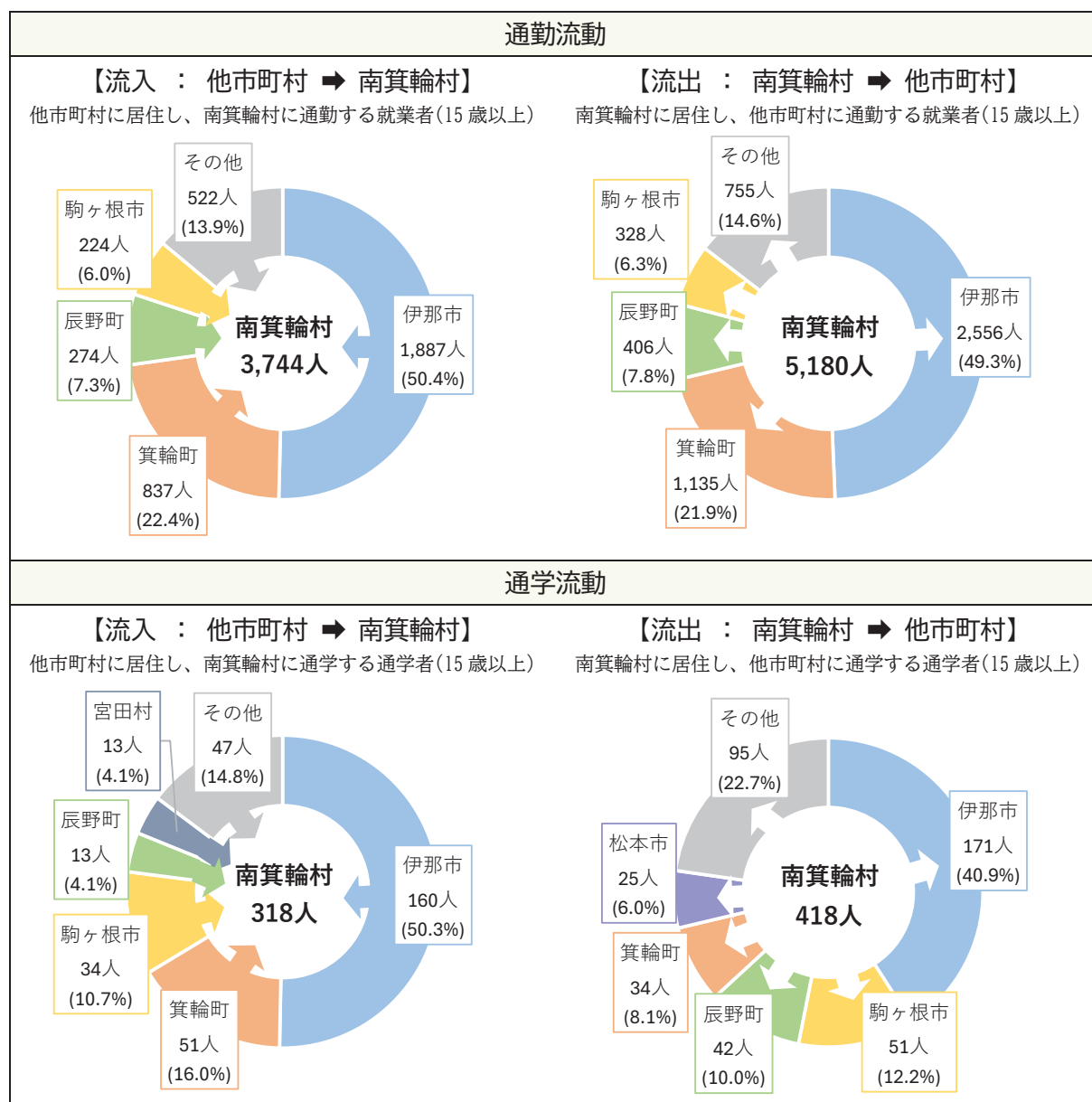


図 2-13 通勤・通学流動

出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」再編加工

(2) 経済環境

1) 農業

本村の農家数、経営耕地面積の推移をみると、販売農家数は減少傾向にある一方で、平成 22 年（2010 年）以降は経営耕地面積（販売農家）が増加に転じているため、持続可能な農業振興に向けて、農業生産基盤の維持と、それを担う人材の確保が求められます。

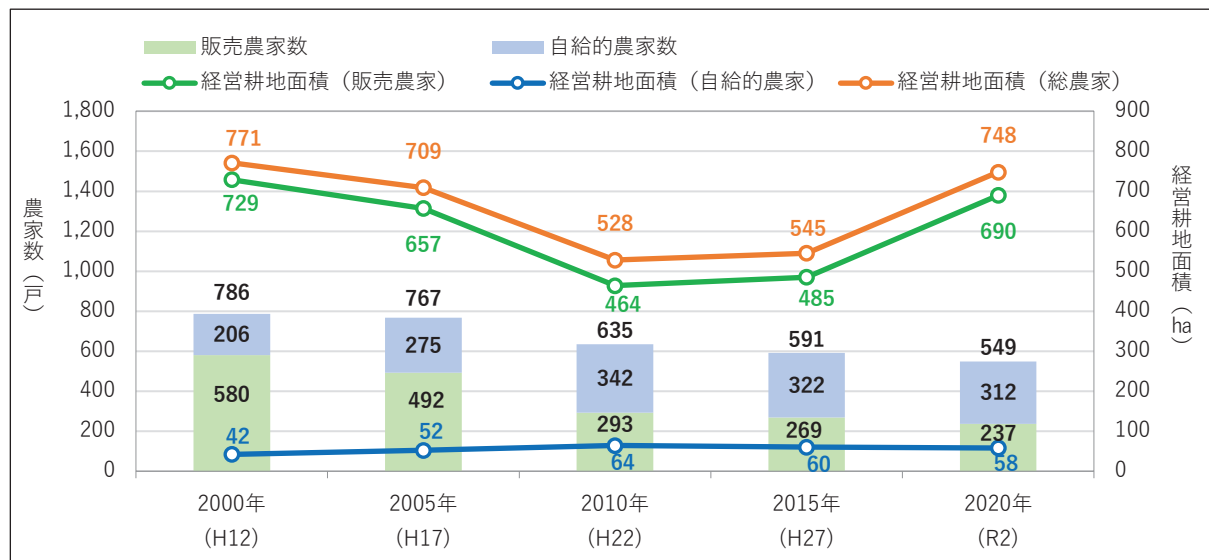


図 2-14 【農業】農家数、経営耕地面積の推移

出典：総務省統計局「農林業センサス」再編加工

2) 観光

本村の観光地利用者数と観光消費額の推移をみると、令和 2 年（2020 年）はコロナ禍の影響で大きく落ち込み、その後は徐々に回復しつつありますが、コロナ禍以前の水準には達していないため、地域資源を活かした観光振興と交流人口の拡大が求められます。

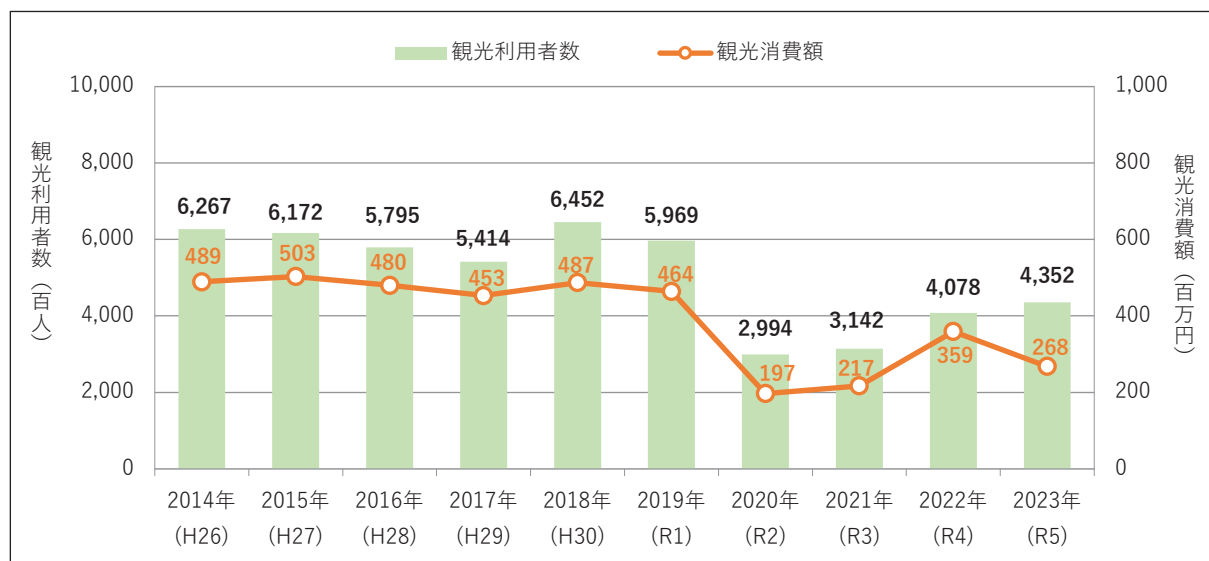


図 2-15 【観光】観光地利用者数、観光消費額の推移

出典：長野県「観光地利用者統計調査」再編加工

3) 工業・商業

本村の事業所数、従業者数、製造品出荷額等、年間商品販売額の推移をみると、横ばい又は微減傾向にあるため、多様な産業・雇用機会の創出と若年層・生産年齢人口の定着促進、及び日常生活を支える商業・サービス機能の充実と利便性の向上が求められます。

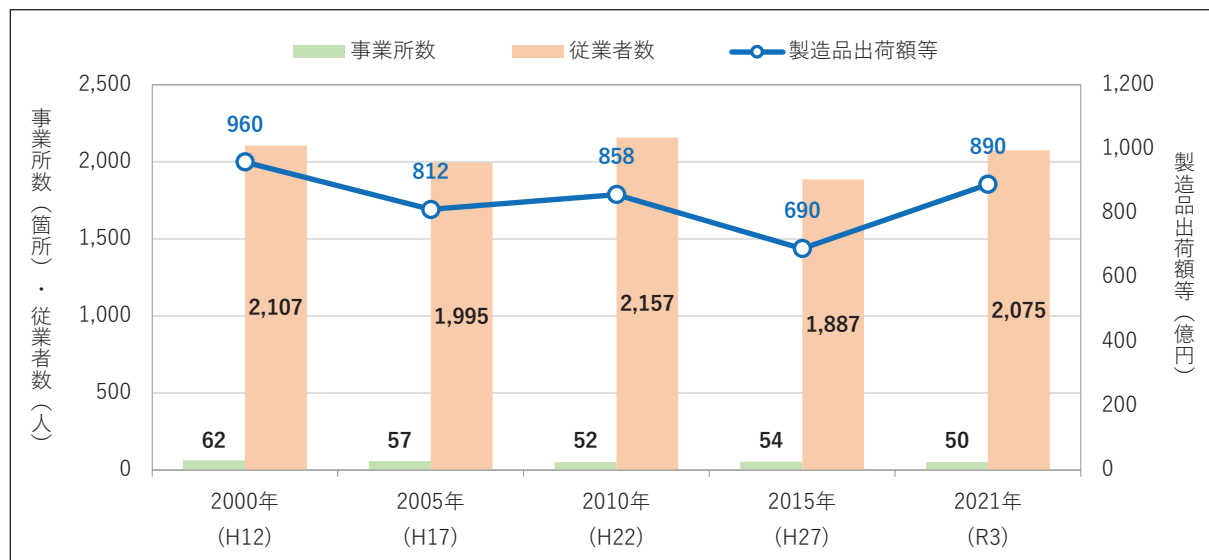


図 2-16 【工業】事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

出典：経済産業省「工業統計調査」再編加工

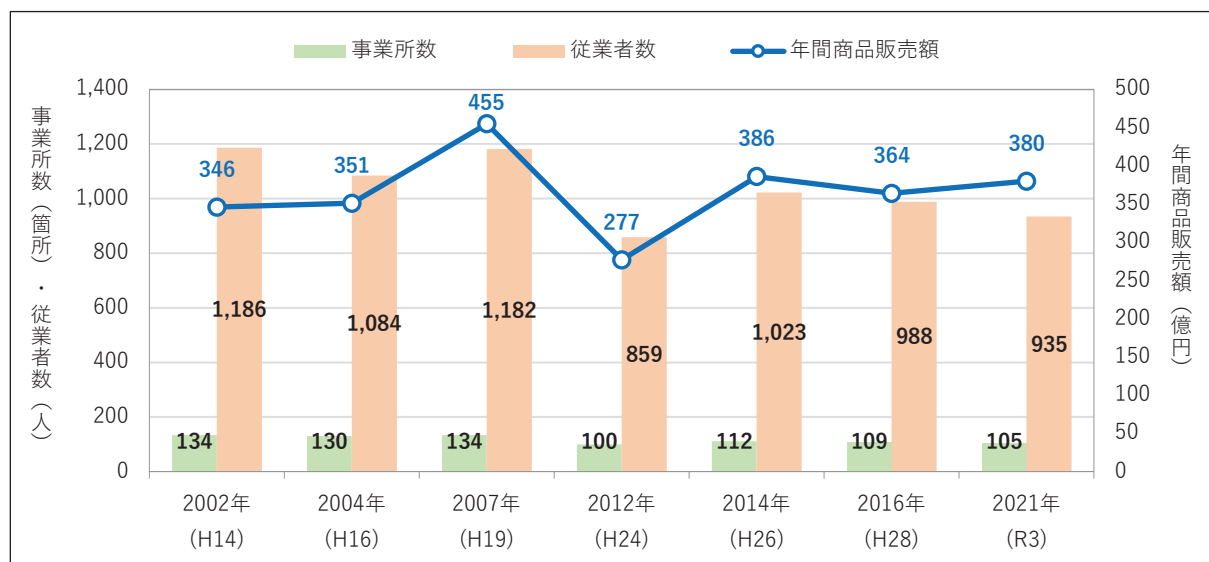


図 2-17 【商業】事業所数、従業者数、年間商品販売額の推移

出典：総務省統計局「商業統計調査・経済センサス活動調査」再編加工

4) 地価

本村の地価公示及び都道府県地価調査による地価の推移をみると、用途地域指定区域内の住居系の土地は横ばい傾向、商業系の土地は下落傾向となっています。また、用途地域外の工業系の土地の地価は微増傾向となっています。

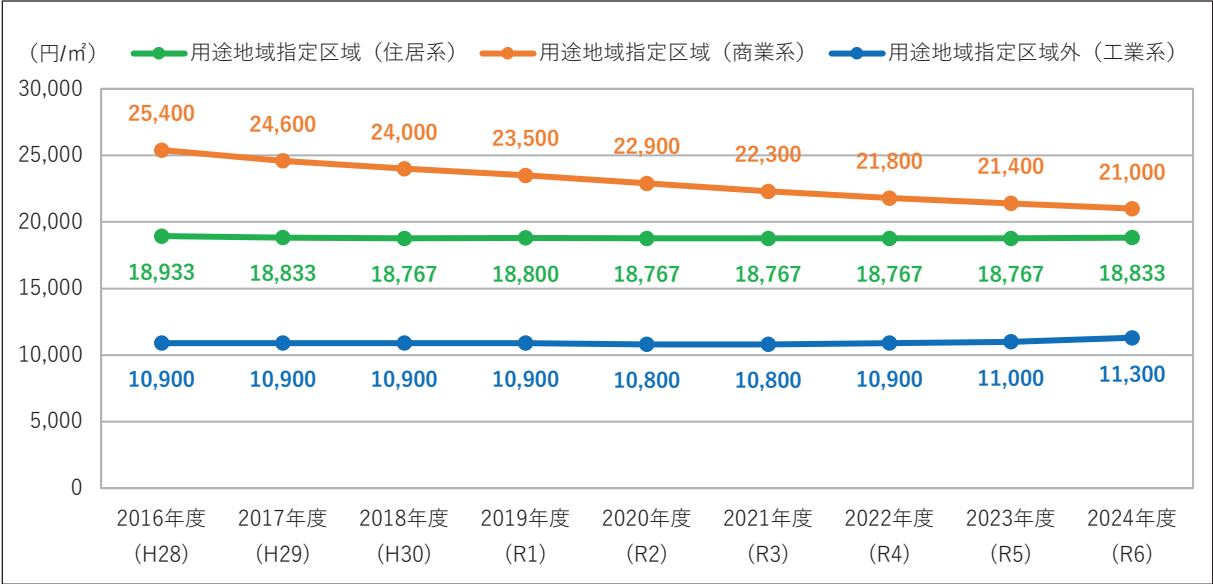


図 2-18 地価の推移

出典：国土交通省「国土数値情報(地価公示、都道府県地価調査データ)」再編加工



図 2-19 地価公示の標準地、都道府県地価調査の基準地の位置

出典：国土交通省「国土数値情報(地価公示、都道府県地価調査データ)」再編加工

(3) 土地利用

1) 土地利用現況

本村の都市計画区域内における土地利用構成比をみると、令和5年（2023年）時点で、田・畑・山林などの自然的土地利用が54.9%（1,141.6ha）、住宅用地や道路用地などの都市的土地利用が45.1%（937.4ha）となっています。

また、平成30年（2018年）と令和5年（2023年）の土地利用構成比を比較すると、用途地域指定区域及び用途地域指定区域外のいずれにおいても、田・畑の割合が減少し、住宅用地の割合が増加しています。

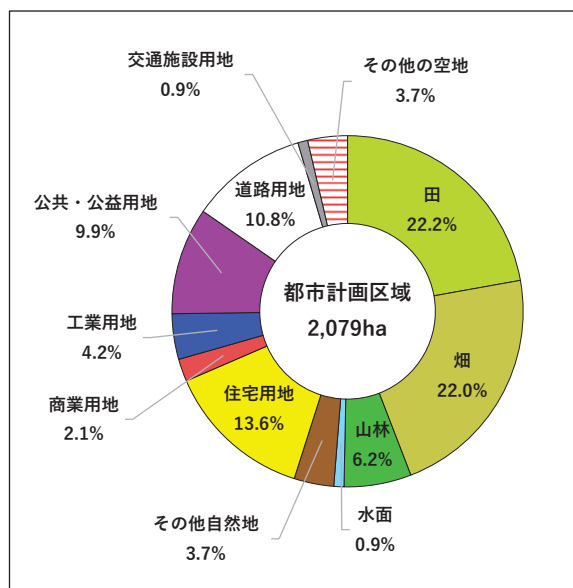


図 2-20 都市計画区域内の土地利用構成比

出典：南箕輪村「令和5年度都市計画基礎調査」再編加工

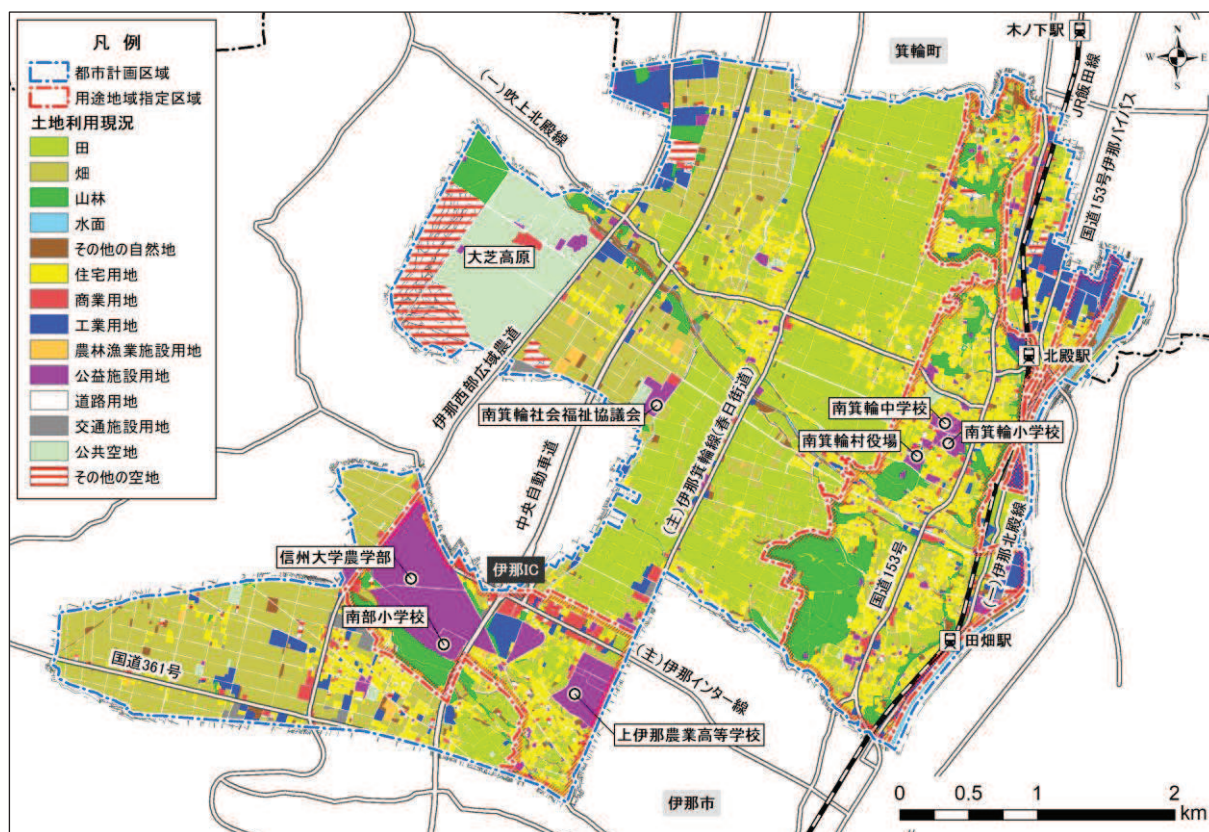


図 2-21 土地利用現況

出典：南箕輪村「令和5年度都市計画基礎調査」再編加工

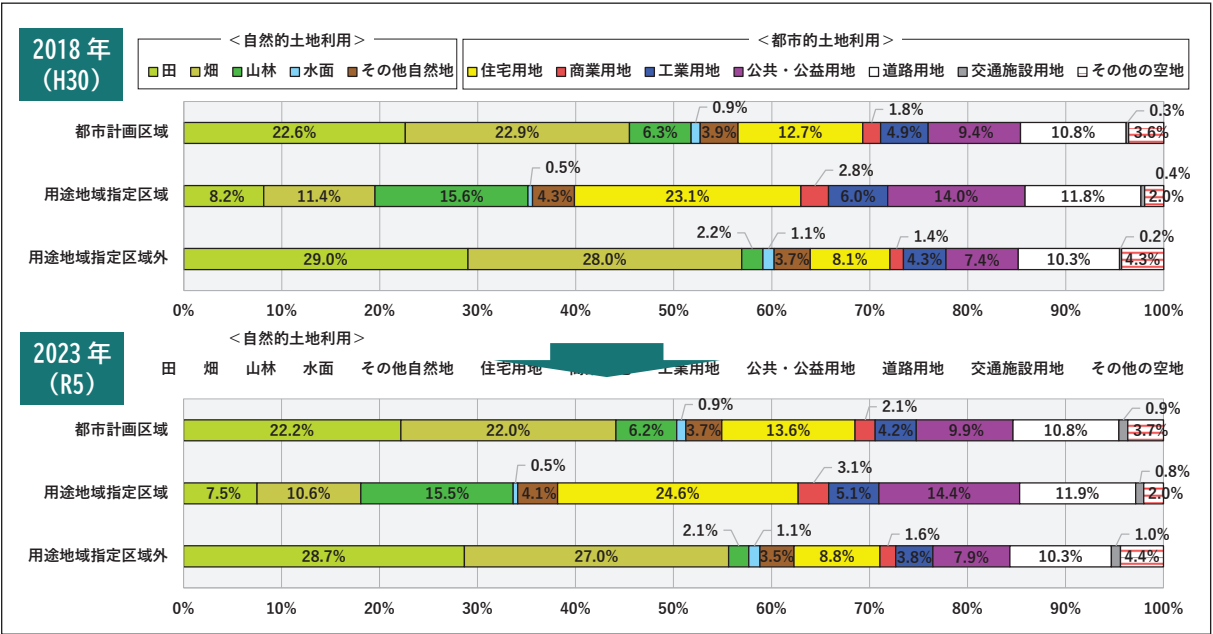


図 2-22 土地利用構成比の変化（2018 年→2023 年）

出典：南箕輪村「平成 30 年度・令和 5 年度都市計画基礎調査」再編加工

2) 森林区域

本村の森林区域の分布をみると、大芝高原一帯の樹林地、用途地域指定区域内の河岸段丘林、信州大学農学部周辺の樹林地などが森林区域に該当しており、レクリエーションや自然観察・散策、環境学習の場としての役割を果たしています。また、近年では松くい虫等の被害量が増大しており、対策が求められています。

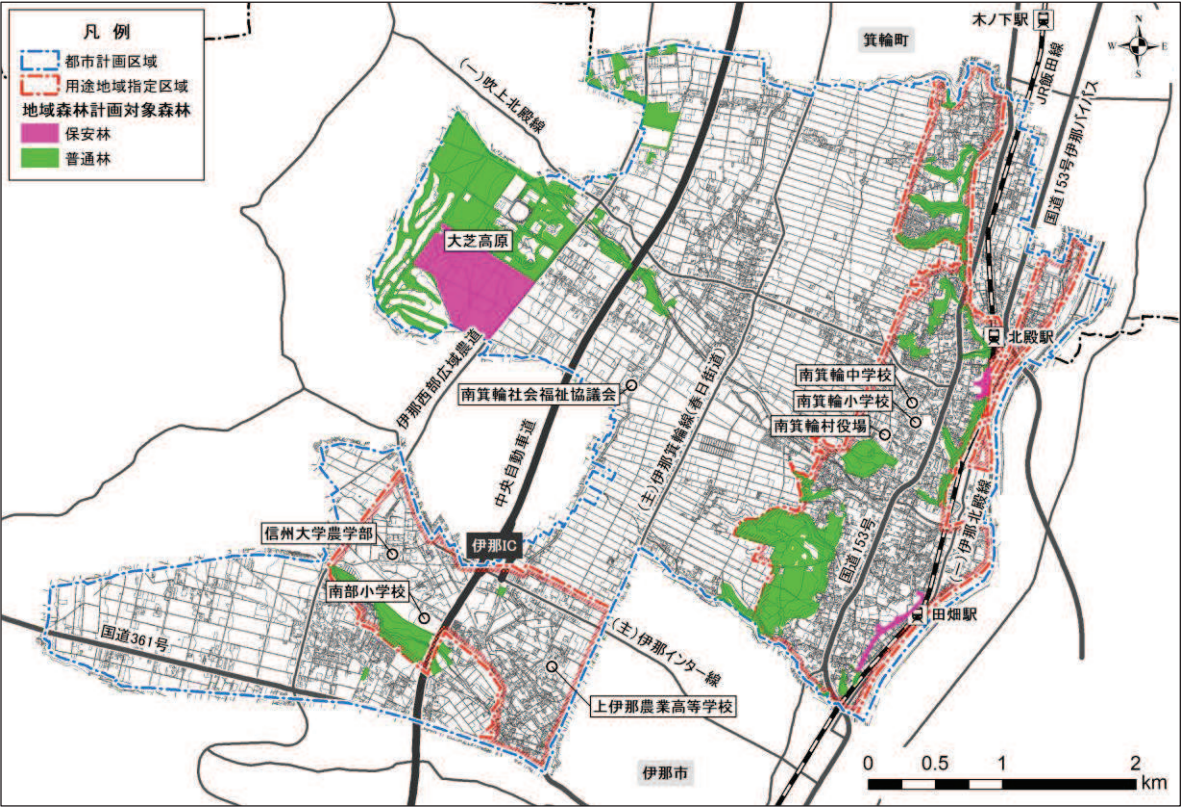


図 2-23 森林区域の状況

出典：長野県「信州くらしのマップ(森林区域)」再編加工

3) 農業振興地域

本村では、用途地域指定区域及び大規模な森林区域を除いたエリアで農業振興地域が指定されており、農地が広範囲にわたって分布しています。

平成25年度（2013年度）から令和4年度（2022年度）の10年間における農地転用面積の推移をみると、平成26年度（2014年度）をピークに減少傾向が続いており、用途地域指定区域外での農地転用が多い傾向にあります。また、直近の令和4年度（2022年度）における転用目的の内訳は、住宅用地が75.7%（2.5ha）、その他が24.3%（0.8ha）となっており、住宅用地への転用が大半を占めています。そのため、無秩序な市街地への拡大抑制と計画的な土地利用誘導による優良農地の保全が求められます。

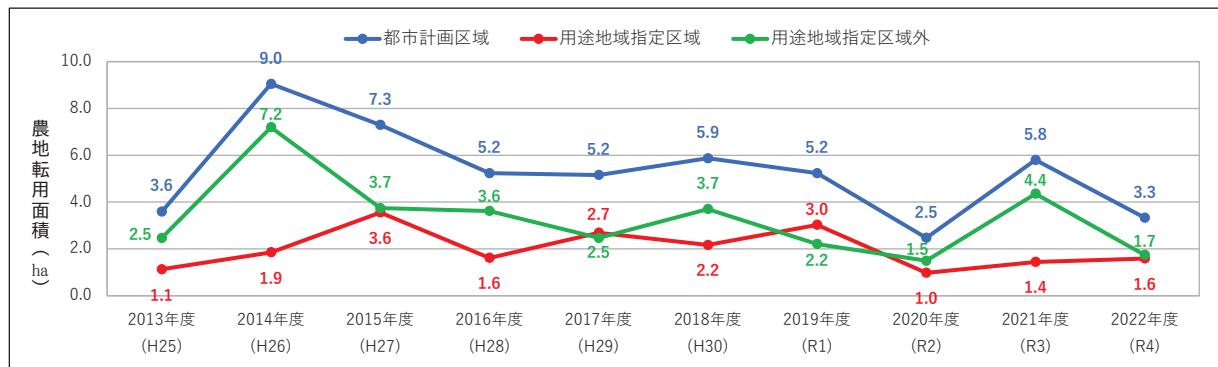


図 2-24 農地転用面積の推移

出典：南箕輪村「平成30年度・令和5年度都市計画基礎調査」再編加工

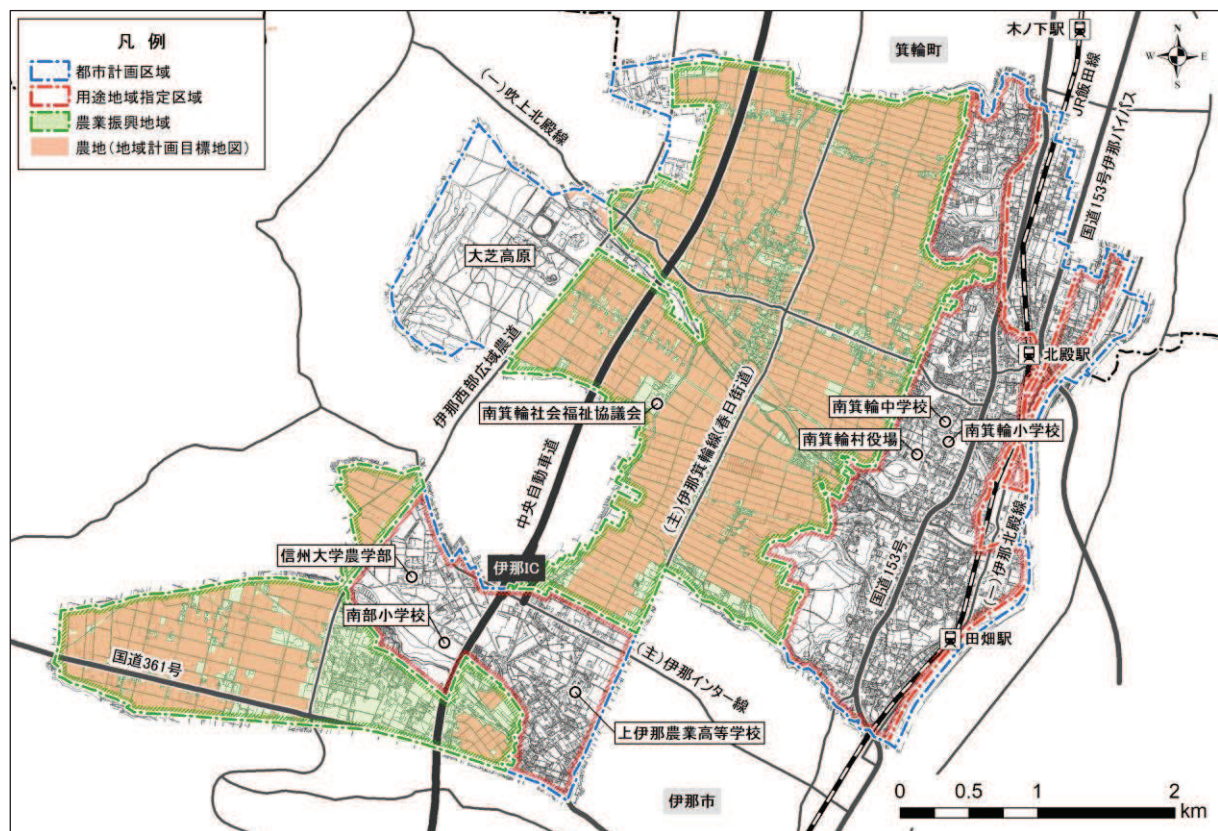


図 2-25 農業振興地域、農地の状況

出典：【農業振興地域】南箕輪村「土地利用計画図」再編加工

【農地】南箕輪村「地域計画（地域農業経営基盤強化促進計画）目標地図※（R7.3）」再編加工

※農業を担う者ごとに利用する農地を地図に示し、10年後に目指すべき農地の姿を明確化するもので、10年後の耕作予定者を農地一筆ごとに特定した地図

(4) 建物立地

1) 建物用途別現況

本村の建物用途別現況による主要施設の立地状況をみると、工場が集積する工業団地として、東部の天竜川沿いには北殿工業団地や田畑工業団地、北西部に北原工業団地、南西部に南原工業団地が立地しています。

文教厚生施設のうち、信州大学農学部や上伊那農業高等学校などの教育施設は伊那 IC 周辺に立地しており、南箕輪村役場、南箕輪小学校、南箕輪中学校、村民センター、図書館などの行政・教育施設は東部に立地しています。また、道の駅大芝高原やふれあい交流センター大芝の湯などの観光・交流施設は大芝高原に立地し、南箕輪村社会福祉協議会などの福祉施設はその南側に立地しています。

商業・業務施設は、国道 153 号及び(主)伊那インター線沿線に立地・集積しています。

各主要施設はまとめて立地・集積しており、暮らしを支える拠点として維持・形成が求められます。

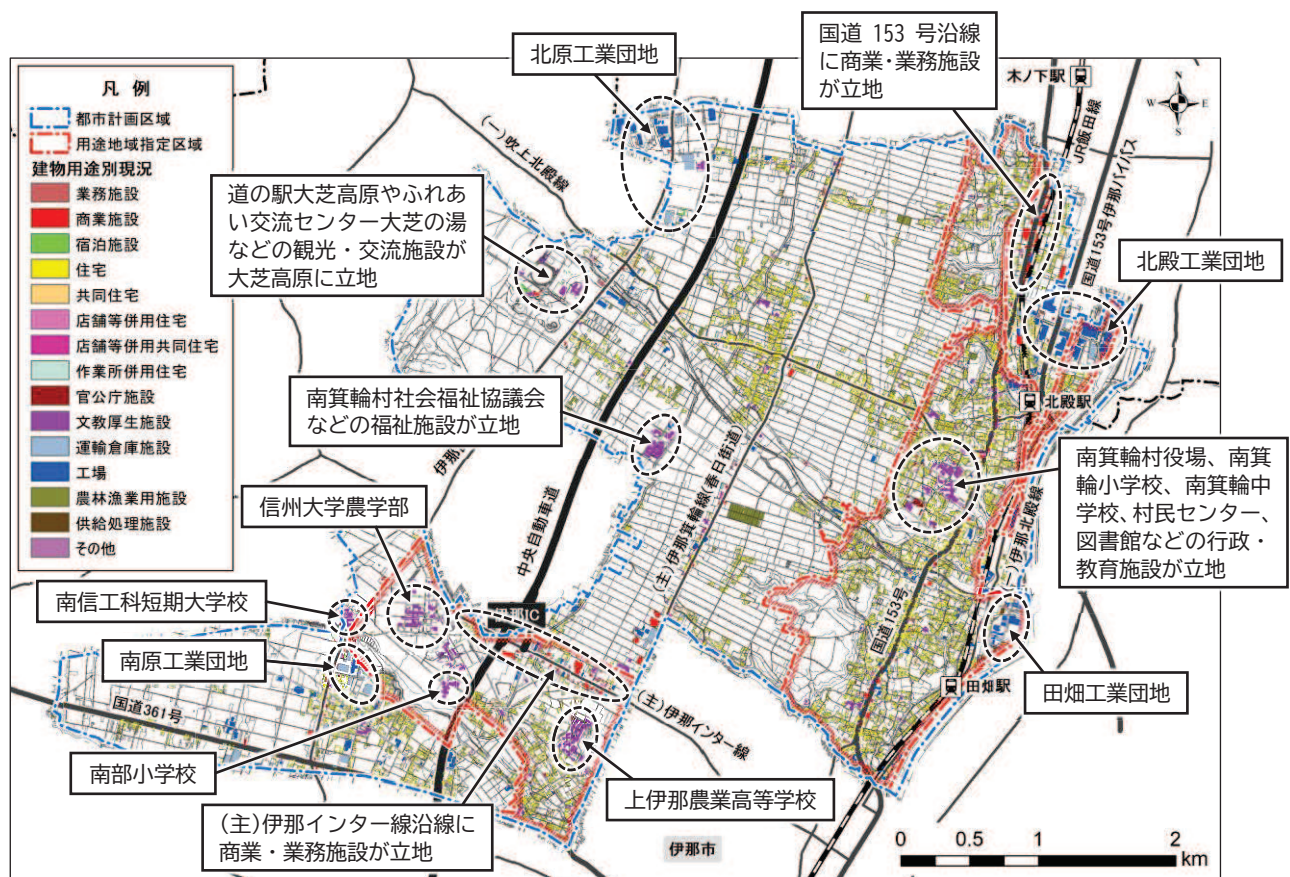


図 2-26 建物用途別現況

出典：南箕輪村「令和 5 年度都市計画基礎調査」再編加工

2) 新築住宅の動向

本村における平成 25 年度（2013 年度）から令和 4 年度（2022 年度）までの 10 年間の新築住宅件数の推移をみると、新築件数はおおむね横ばいで推移しており、用途地域指定区域外での新築が多い傾向にあります。

また、新築住宅の分布をみると、用途地域指定区域内では南殿、用途地域指定区域外では北殿及び南原に新築住宅が多く立地しています。

将来の人口動向などを踏まえつつ、用途地域指定区域内・外における計画的な住宅立地の誘導を図る必要があります。

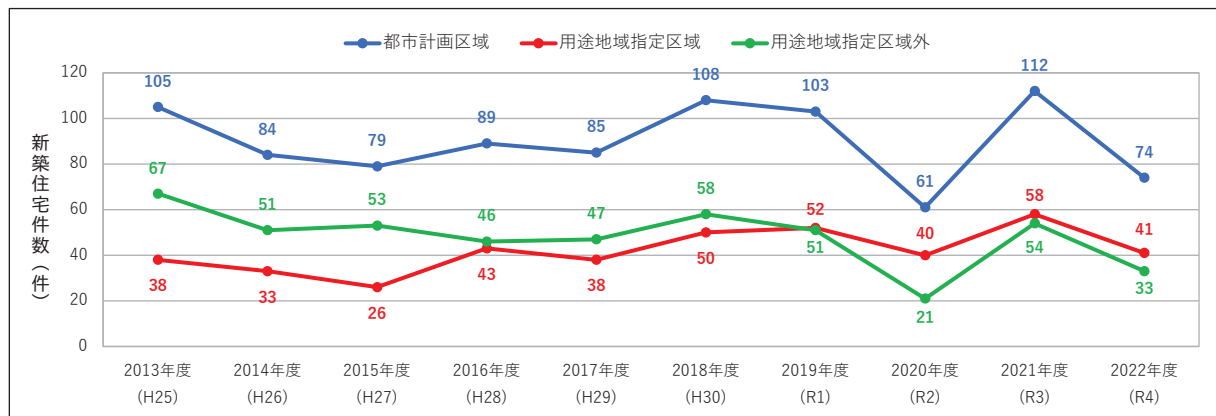


図 2-27 新築住宅件数の推移

出典：南箕輪村「平成 30 年度・令和 5 年度都市計画基礎調査」再編加工

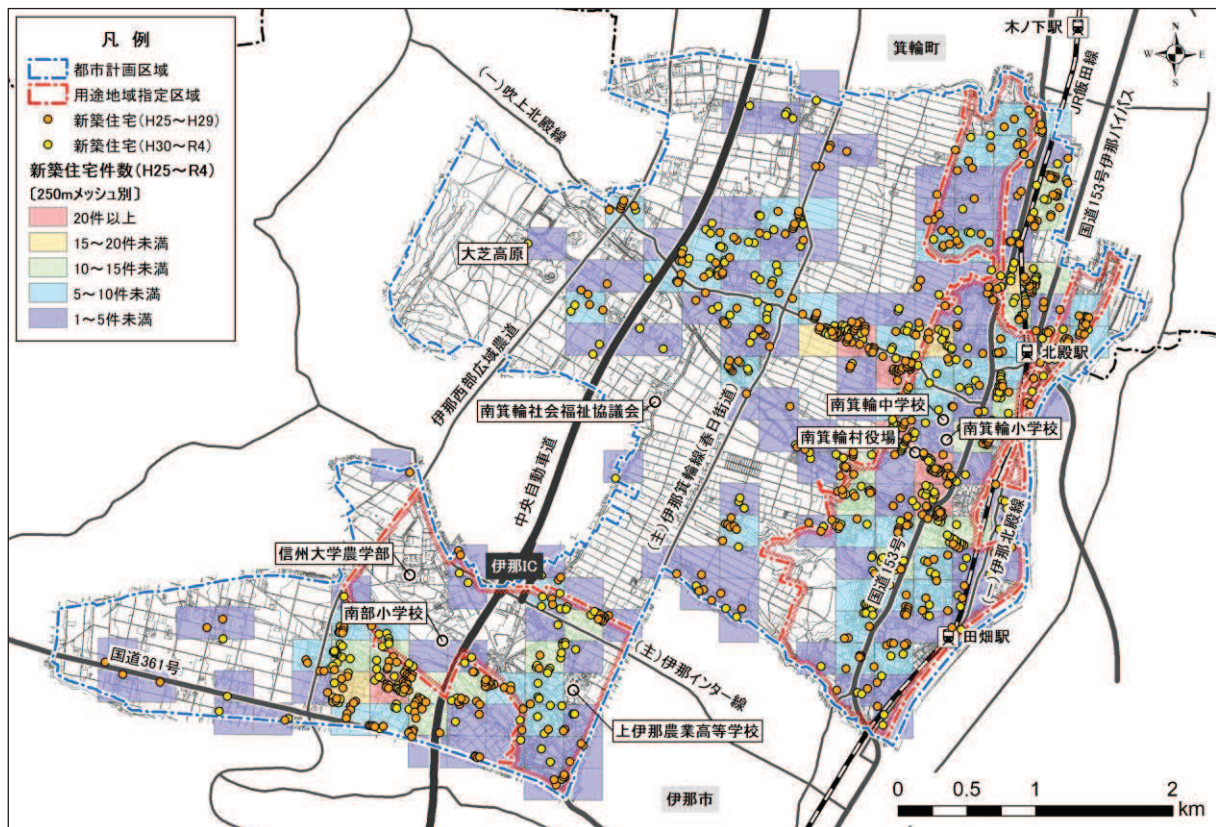


図 2-28 新築住宅の分布

出典：南箕輪村「平成 30 年度・令和 5 年度都市計画基礎調査」再編加工

3) 空き家等の状況

第2期南箕輪村空き家等対策計画で整理されている空き家等調査の結果によると、令和3年度（2021年度）における空き家数は117戸で、村内の居宅に用する家屋総数5,132戸に対する割合（空き家率）は2.3%となっています。

また、空き家等の外観目視による危険度判定（地区別）では、Cランク以上の危険度と判定された空き家が村内全体で9戸確認されていますが、特定空き家に該当するEランクの空き家はありませんでした。

将来的な人口減少の進行により空き家の増加が懸念されることから、空き家等の適切な管理や利活用を進めていくことが求められます。

表 2-4 空き家等の外観目視危険度判定結果表（地区別）

（単位：戸）

地区名	外観目視危険度判定区分				
	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	Eランク
久保	6	0	1	2	0
塩ノ井	4	0	2	1	0
中込	8	0	0	0	0
南殿	7	0	0	0	0
北殿	21	0	0	1	0
田畑	15	1	0	0	0
神子柴	8	1	0	0	0
沢尻	11	0	0	0	0
南原	11	1	0	0	0
大芝	1	0	0	0	0
大泉	11	0	0	0	0
北原	2	0	1	1	0
計	105	3	4	5	0

出典：南箕輪村「第2期南箕輪村空き家等対策計画」再編加工

表 2-5 危険度判定区分表

区分	危険度の判定
Aランク	目立った損傷や危険箇所がなく、ただちに周辺環境に危険を及ぼす恐れはない。補修等による再利用が可能。
Bランク	管理不全な箇所が見受けられるが、ただちに周辺環境に危険を及ぼす恐れは小さい。
Cランク	管理不全な箇所が見受けられ、現在の状態が継続されると周辺環境に危険を及ぼす可能性がある。
Dランク	家屋の損傷が激しく、周辺環境に危険を及ぼす可能性が高い。
Eランク	著しく損傷しており、特定空き家の疑いが極めて高い。

出典：南箕輪村「第2期南箕輪村空き家等対策計画」再編加工

(5) 道路・交通

1) 主要道路の交通状況

本村の主要道路は、東側から国道 153 号伊那バイパス、国道 153 号、(主)伊那箕輪線、中央自動車道、伊那西部広域農道が南北に並行して走っており、(主)伊那インター線、国道 361 号、(一)吹上北殿線がこれらの道路と交差し、東西方向を結んでいます。このような道路網の構成から、南北方向に比べて東西方向の交通インフラはやや脆弱であるといえます。

令和 3 年度道路交通センサスによる 24 時間交通量及び混雑度をみると、国道 153 号、国道 153 号伊那バイパス、(主)伊那箕輪線、(主)伊那インター線では、交通量が 1 万台を超えていますが、混雑度はいずれも 1.0 以下となっています。



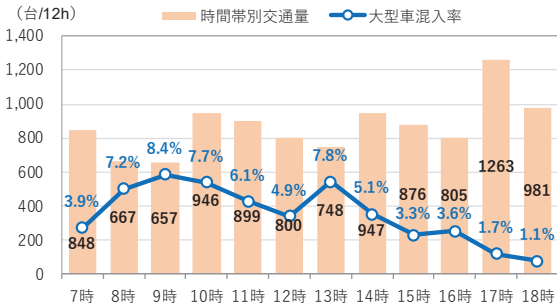
図 2-29 主要道路の 24 時間交通量・混雑度の状況

出典：長野県「信州くらしのマップ(令和 3 年度道路交通センサス)」再編加工

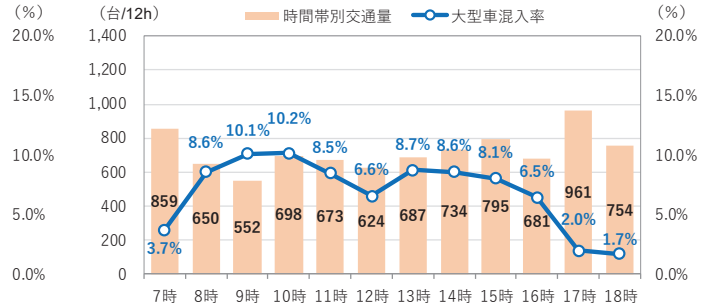
主な観測地点における昼間 12 時間の時間帯別交通量と大型車混入率をみると、国道 153 号や（主）伊那インター線、（主）伊那箕輪線では、特に 7 時台や 17 時台などで交通量が多くなっており、朝夕などの通勤時間帯には一部路線で混雑が発生している状況です。

また、大型車混入率は、全体的に 9 時台や 13 時台が特に多い傾向となっています。

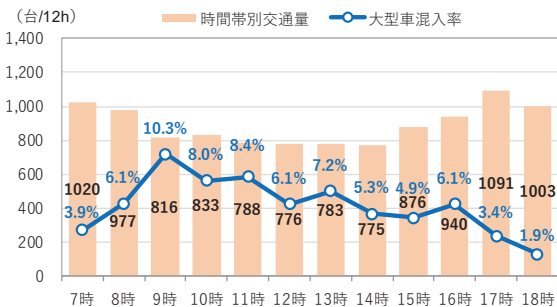
①国道 153 号伊那バイパス



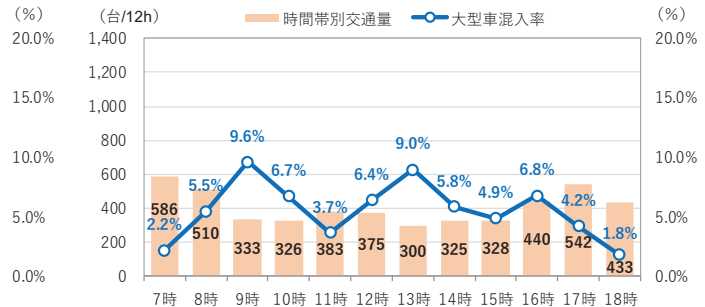
②国道 153 号伊那バイパス



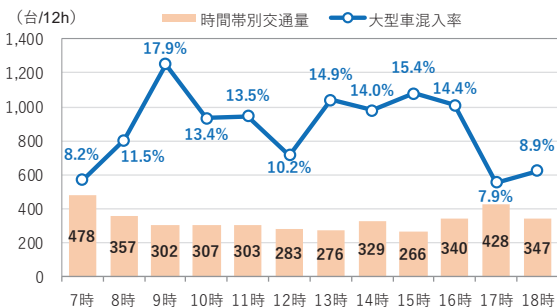
③国道 153 号



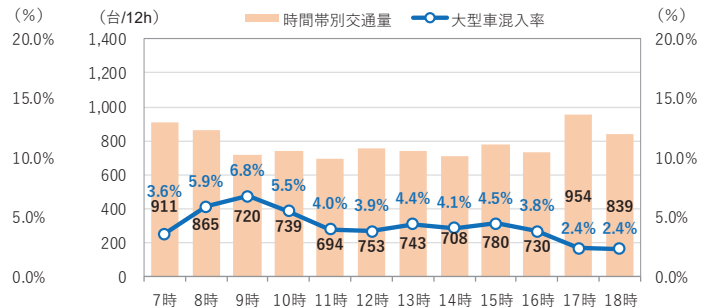
④国道 361 号



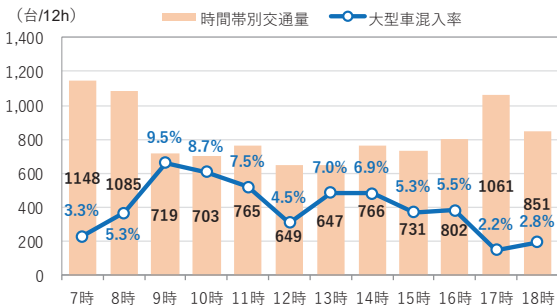
⑤国道 361 号



⑥(主)伊那インター線



⑦(主)伊那箕輪線



⑧(一)吹上北殿線

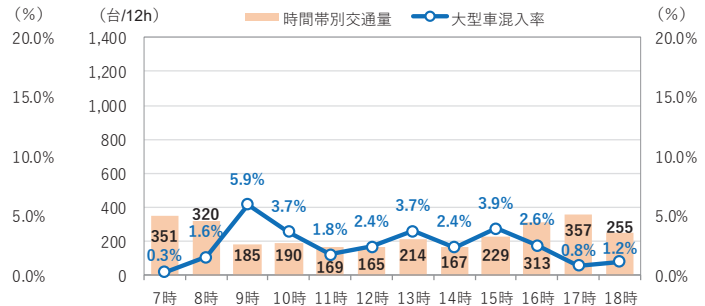


図 2-30 主要道路の昼間 12 時間交通量・大型車混入率の状況

出典：国土交通省「全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査(令和 3 年度道路交通センサス)」再編加工

※各路線の番号①～⑧は、前頁の図と対応

2) 交通事故発生箇所の分布

本村における令和元年度（2019年度）から令和5年度（2023年度）までの交通事故発生箇所の分布をみると、国道153号、国道153号伊那バイパス、(主)伊那箕輪線、(主)伊那インター線などの幹線道路の交差点周辺において、交通事故の発生件数が多くなっています。また、件数は少ないものの、住宅地や集落地内の生活道路でも交通事故が発生しています。

令和元年度（2019年度）から令和5年度（2023年度）までの交通事故発生件数の推移をみると、件数は増加傾向にあります。

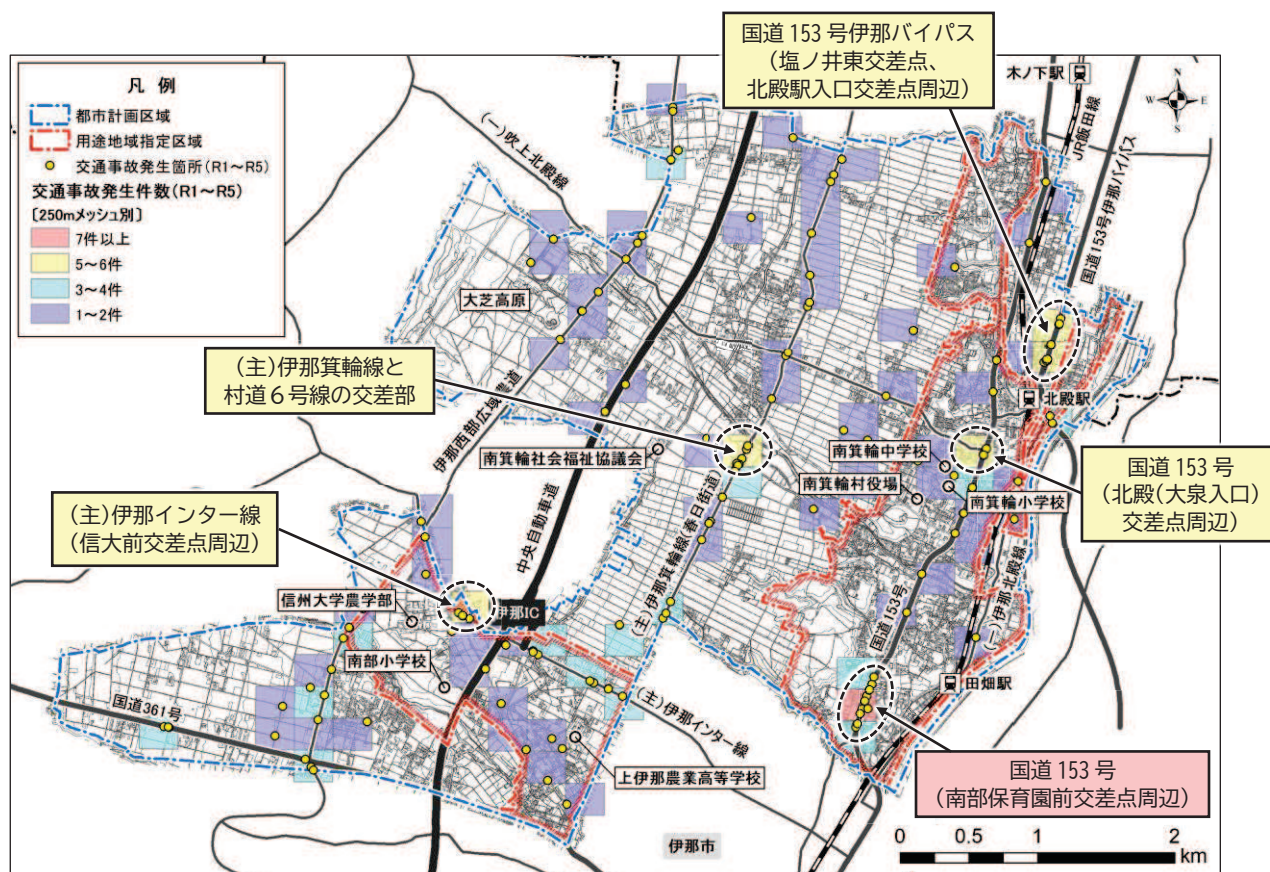


図 2-31 交通事故発生箇所の分布

出典：長野県「信州くらしのマップ(交通事故情報)」再編加工

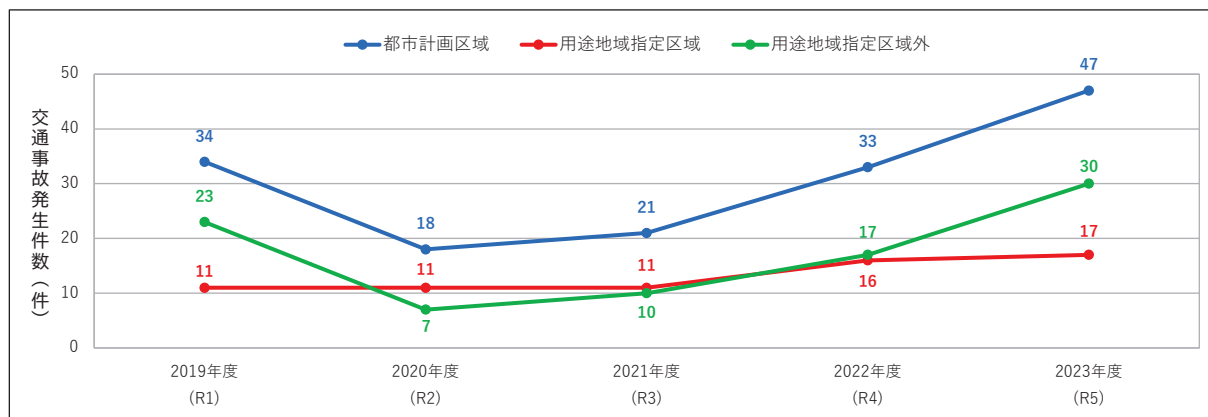


図 2-32 交通事故発生件数の推移

出典：長野県「信州くらしのマップ(交通事故情報)」再編加工

3) 公共交通

① 鉄道

本村内を運行する鉄道路線としては「JR 飯田線」があり、村内には北殿駅と田畑駅の2つの駅があります。

直近5年間における1日あたりの平均乗車人員の推移をみると、いずれの駅も減少傾向にあります。

このため、交通結節点としての機能強化や、鉄道と路線バスとの相互連携の充実、公共交通利用者の利便性向上が求められます。

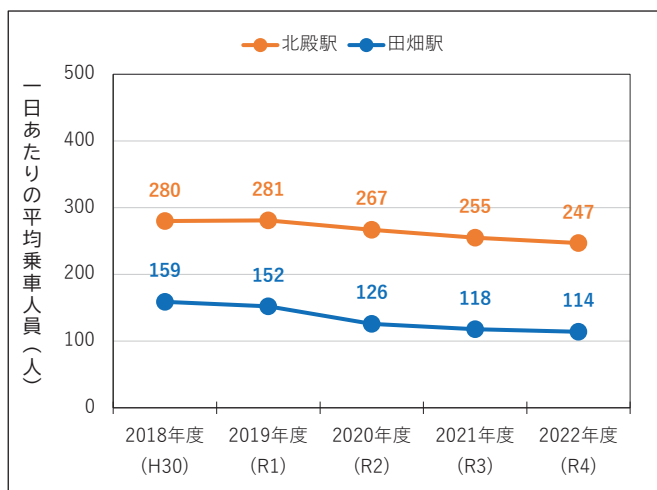


図 2-33 北殿駅・田畑駅の平均乗車人員の推移

出典：長野県「長野県統計書(JR の駅別乗車人員)」再編加工

② バス

本村内で運行しているバスには「伊那本線」、「西箕輪線」、「まっくんバス」があります。

伊那本線は、通勤・通学・通院・買い物など、生活や経済の結びつきが強い伊那市・箕輪町・南箕輪村の3市町村が連携し、住民の移動や交流を促進することを目的として、平成29年(2017年)4月に運行を開始した路線です。伊那本線の年間利用者数は、令和元年度(2019年度)までは増加傾向にありましたが、それ以降は減少傾向となっており、令和6年度(2024年度)には17,842人となっています。

西箕輪線は、伊那市街地から村内を経由して伊那市与地までを結ぶ路線で、令和6年度(2024年)の年間利用者数は31,928人となっています。

まっくんバスは、「北コースー南コースー東コースー南原・沢尻コース」及び「東コースー南原・沢尻コースー北コースー南コース」をバス2台で循環運行しており、令和6年度(2024年度)の年間利用者数は10,558人となっています。

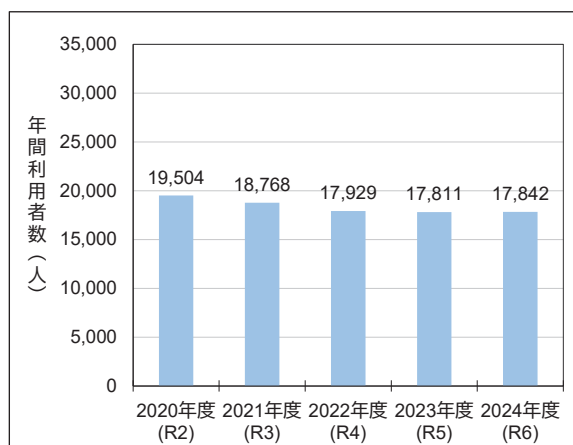


図 2-34 伊那本線の年間利用者数の推移

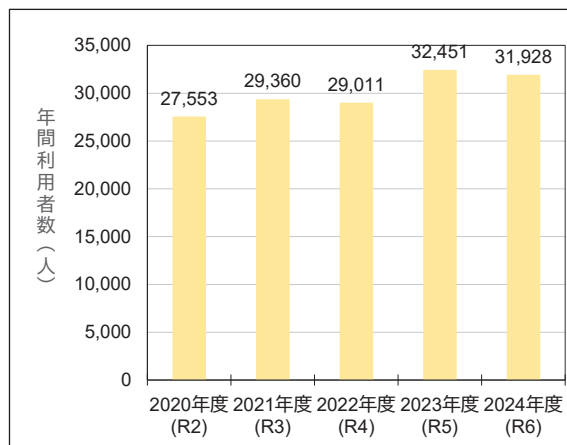


図 2-35 西箕輪線の年間利用者数の推移

出典：南箕輪村「伊那本線、西箕輪線利用実績」再編加工

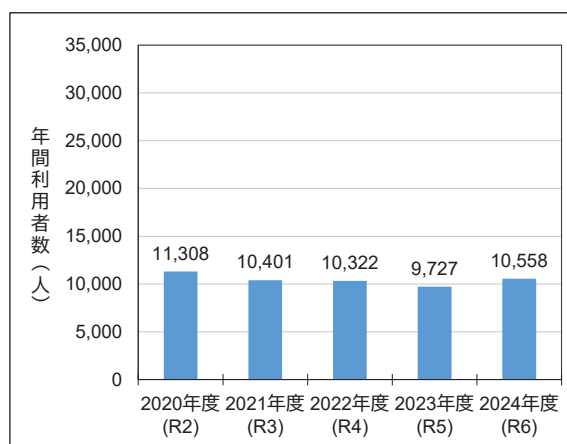


図 2-36 まっくんバスの年間利用者数の推移

出典：南箕輪村「まっくんバス利用実績」再編加工

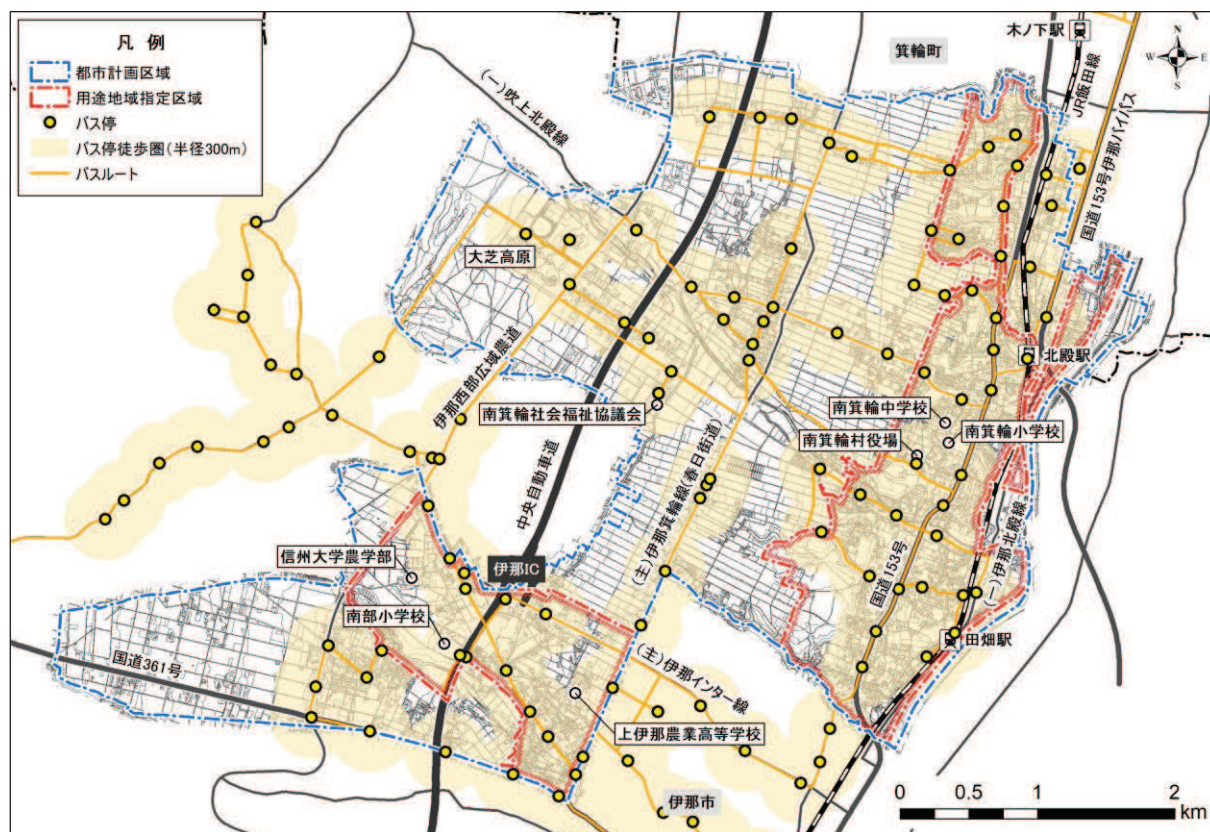


図 2-37 公共交通（バス※）の状況

出典：南箕輪村「路線図(伊那本線、西箕輪線、まっくんバス)」再編加工

※まっくんバスは、令和8年（2026年）4月からルート変更を予定しています。

(6) 防災

1) 土砂災害

本村における土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定状況をみると、用途地域指定区域内の河岸段丘や斜面地において指定されており、土砂災害対策の推進が求められます。

その一方、用途地域指定区域外では、土砂災害のリスクは比較的低い状況となっています。

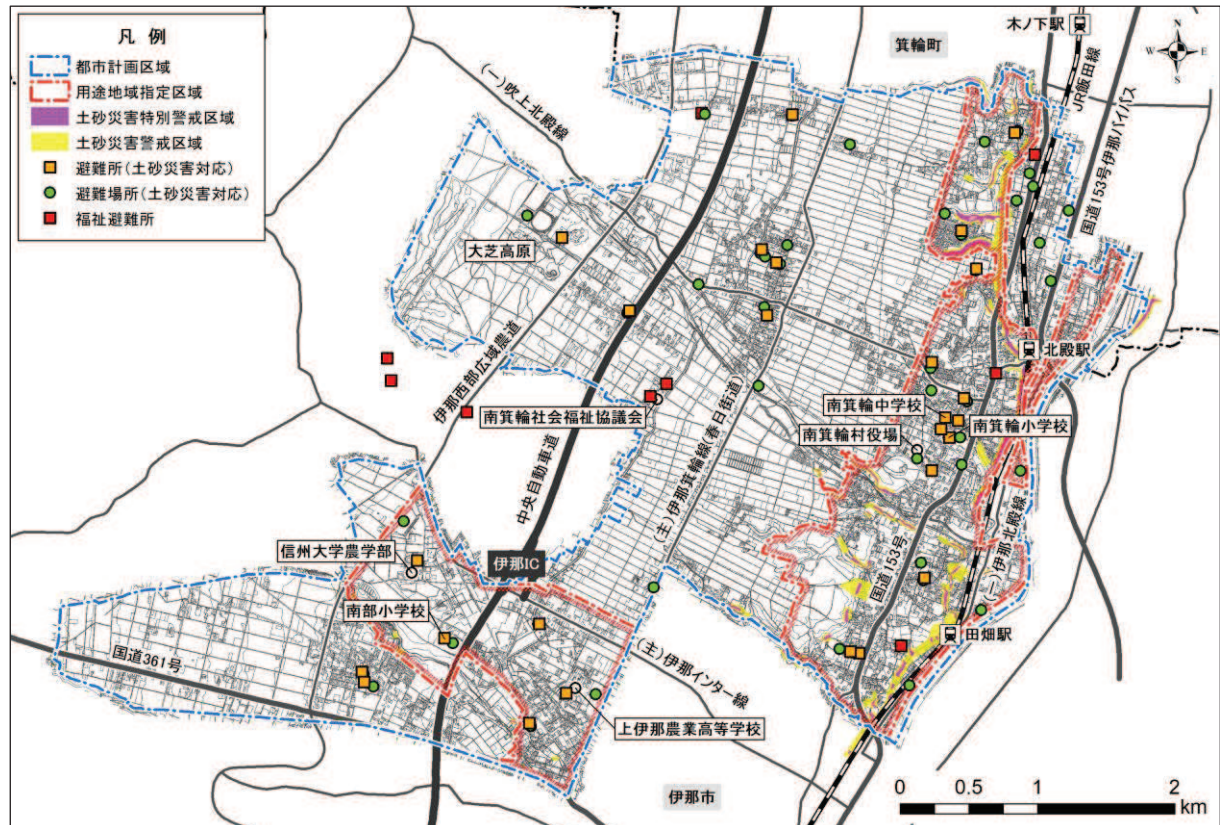


図 2-38 土砂災害警戒区域の状況

出典：【ハザード情報、避難所・避難場所】南箕輪村「南箕輪村防災マップ」再編加工
【福祉避難所】長野県「福祉避難所設置状況一覧(令和6年3月31日現在)」再編加工

2) 洪水災害

本村における洪水浸水想定区域（想定最大規模降雨）の指定状況をみると、天竜川、大泉川、大清水川の沿岸において、広範囲にわたり洪水浸水想定区域が指定されています。

特に天竜川右岸の国道 153 号伊那バイパス沿線や、北殿工業団地・田畑工業団地、南箕輪村社会福祉協議会などの福祉施設が集積するエリアも洪水浸水想定区域に含まれており、これらの地域では浸水リスクへの対応が求められます。

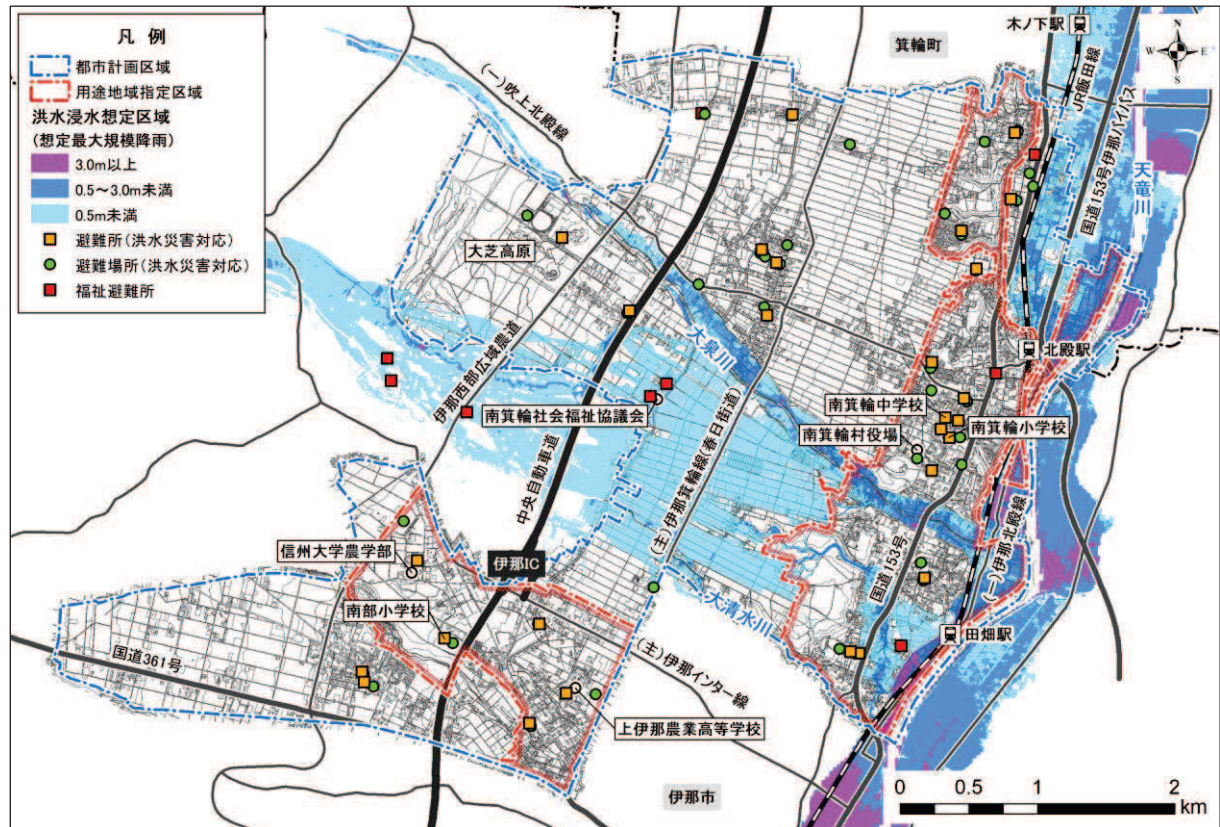


図 2-39 洪水浸水想定区域（想定最大規模降雨）の指定状況

出典：【ハザード情報、避難所・避難場所】南箕輪村「南箕輪村防災マップ」再編加工
【福祉避難所】長野県「福祉避難所設置状況一覧(令和 6 年 3 月 31 日現在)」再編加工

3) 地震災害

本村は「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されているほか、伊那谷活断層による大規模災害の発生が懸念されています。そのため、近年の東日本大震災や熊本地震などの教訓を踏まえた防災・減災対策の一層の推進が求められます。

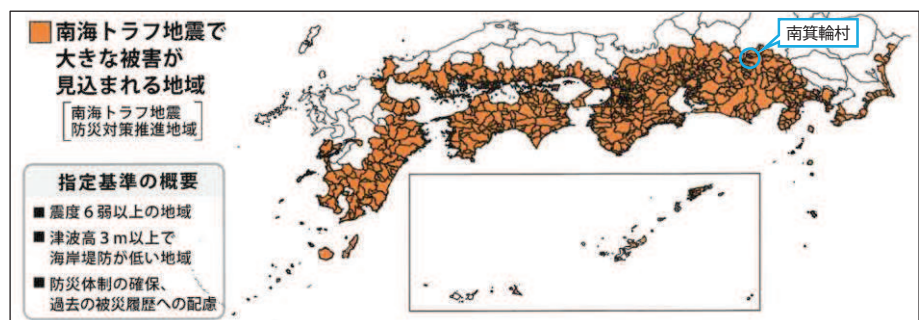


図 2-40 南海トラフ地震防災対策推進地域の指定状況

出典：内閣府・気象庁「南海トラフ地震パンフレット」再編加工

(7) 景観

本村は、西に中央アルプスの経ヶ岳や西駒ヶ岳、東に南アルプスの仙丈ヶ岳や東駒ヶ岳を望む優れた山岳景観に恵まれています。伊那谷特有の河岸段丘の西側に広がる扇状地には、樹林地、市街地、農地が分布し、それぞれが森林景観、市街地景観、田園景観を形成しています。

また、本村では「景観十選」が選定されており、村内各地に分散して配置され、良好な景観要素となっています。

平成 27 年（2015 年）4 月には「景観行政団体」となり、「南箕輪村景観計画」を策定して、これらの景観の維持・保全に向けた取組を推進しています。

国道 361 号の沿道では、平成 18 年（2006 年）に「南原地区まちづくり景観形成住民協定」が締結され、地区住民が定めた景観形成基準に基づき、景観づくりが進められています。

中央自動車道や国道 361 号の沿道、住居系の用途地域では、屋外広告物条例に基づく屋外広告物の規制が導入されています。

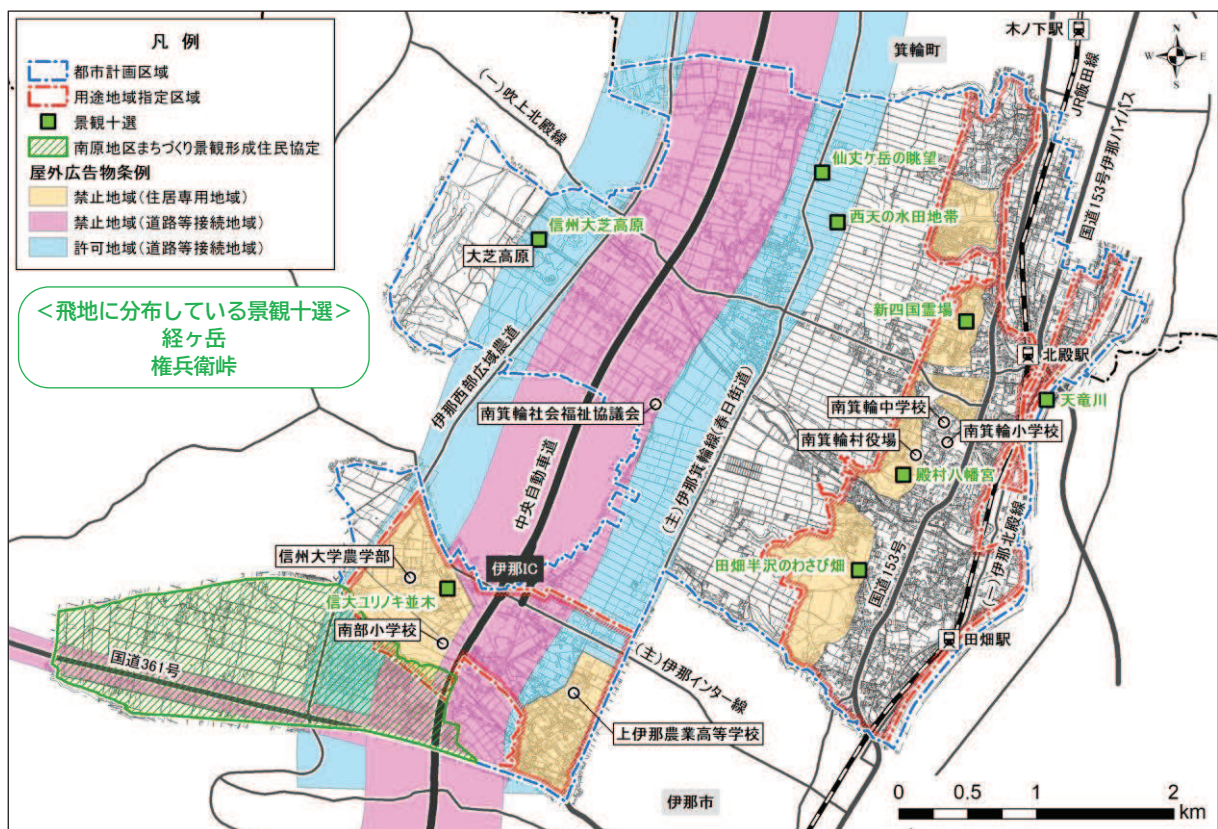


図 2-41 景観に関する法規制と南箕輪村景観十選の分布

出典：長野県「信州くらしのマップ」再編加工

(8) 環境

1) ゼロカーボン

ゼロカーボンとは、地球温暖化の原因となる温室効果ガス（二酸化炭素など）の排出量を、森林などが吸収する量以下にすることで、温室効果ガスの実質的な排出量をゼロにすることです。長野県では、「長野県ゼロカーボン戦略」（令和4年（2022年）改定）において、温室効果ガス排出量の削減目標として「2030年度までに2010年度比で60%削減」を掲げています。

本村においても、「南箕輪村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を令和6年（2024年）3月に策定し、長野県が掲げている削減目標に歩調を合わせ、温室効果ガス排出量の削減目標として「2030年度までに2010年度比で60%削減」を掲げています。

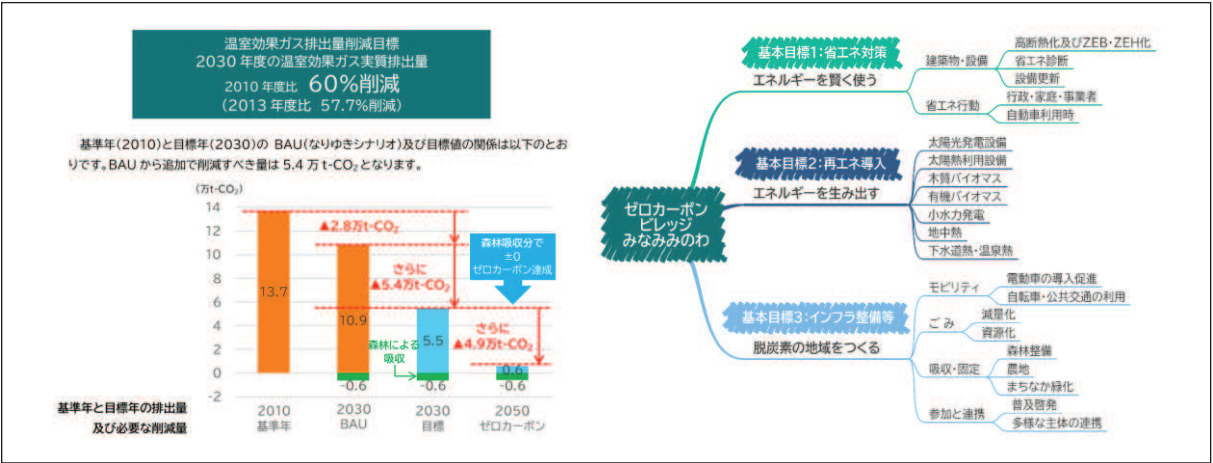


図 2-42 温室効果ガス排出量の削減目標と施策体系

出典：南箕輪村「南箕輪村地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（令和6年3月）」再編加工

2) 南箕輪村太陽光発電施設の設置等に関する条例

本村では、令和7年（2025年）1月1日に「南箕輪村太陽光発電施設の設置等に関する条例」を施行し、太陽光発電施設の設置等に関して必要な事項を定め、事業区域及び周辺地域の自然環境及び景観の保全並びに生活環境との調和を図るとともに、災害の発生を防止し、村民の安全安心な生活の確保を図るものとしています。

条例の対象となる施設は、地上設置型の太陽光発電施設（建築物の屋根・屋上を除く）で、合計出力が10kW以上のもの（複数施設の合算も含む）であり、「禁止区域」及び「抑制区域」に該当する区域は下表のとおりです。

表 2-6 南箕輪村太陽光発電施設の設置等に関する条例による禁止区域・抑制区域の概要

区 分	該当する区域
禁止区域 (設置できない区域)	土砂災害特別警戒区域、砂防指定地、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、保安林の区域、農地の区域（営農型太陽光は除く）、村長が指定する区域
抑制区域 (原則設置できない区域)	民有林の区域、文化財保護法により指定された史跡、名勝若しくは天然記念物、伝統的建造物群保存地区、鳥獣保護区、長野県史跡、長野県名勝若しくは長野県天然記念物、南箕輪村景観条例第10条に規定される地区、村長が指定する区域

出典：南箕輪村「南箕輪村太陽光発電施設の設置等に関する条例」

(9) 財政

本村の一般会計の歳入総額は、平成 25 年度(2013 年度)が 59.3 億円、令和 5 年度(2023 年度)が 82.4 億円で増加傾向にあるものの、費目別歳入割合をみると自主財源の割合が低下し、国・県支出金を中心とした依存財源の割合が増加しており、持続可能なむらづくりを推進する上で安定した自主財源の確保が求められます。

また、目的別歳出割合をみると、社会福祉費や教育費の割合が増加しています。

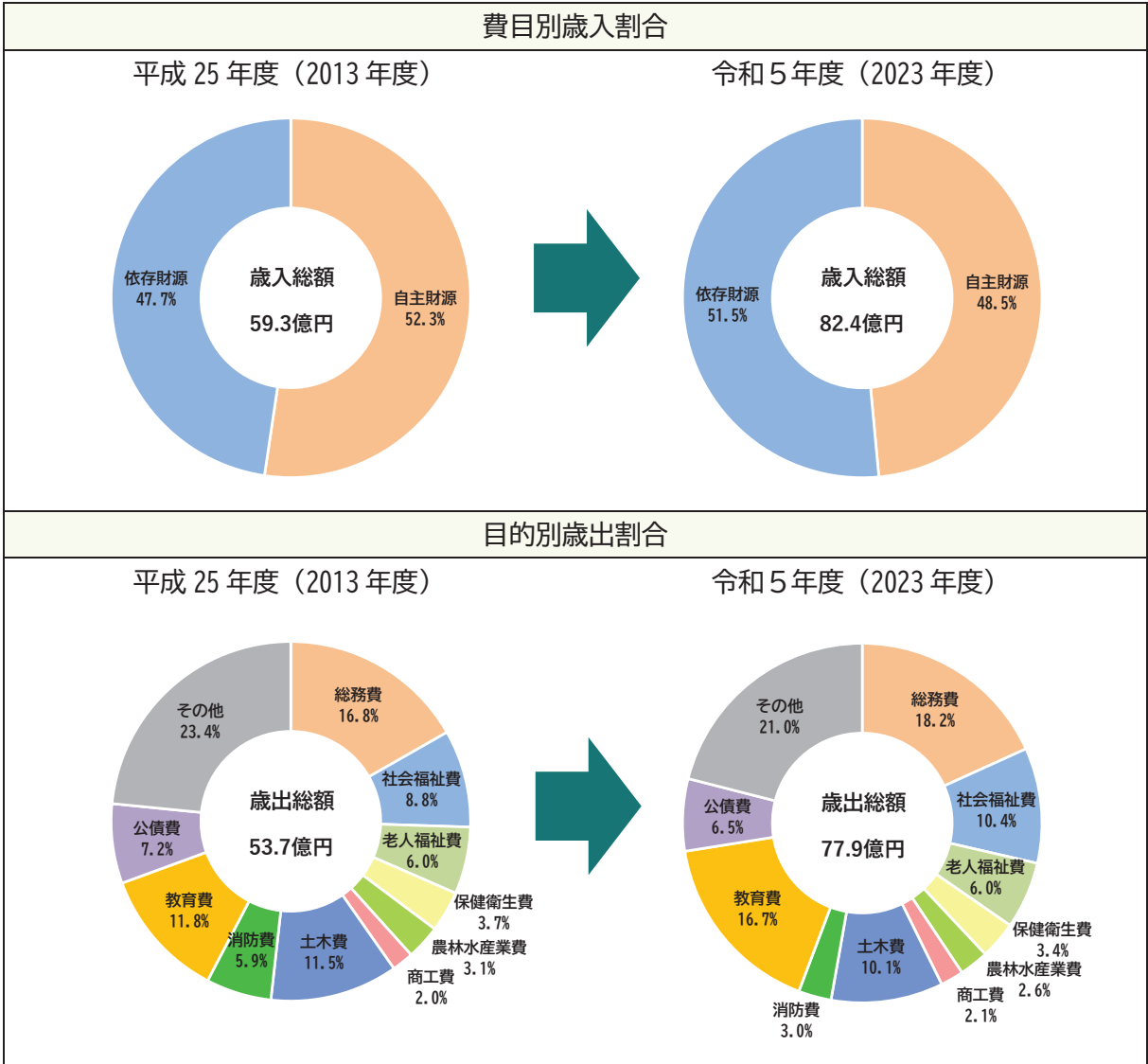


図 2-43 歳入・歳出構造（費目別歳入割合・目的別歳出割合）

出典：総務省「市町村別決算状況調（平成 25 年度、令和 5 年度）」再編加工

2-4. むらづくりに関する住民意向

将来のむらづくりなどに関する住民意向を把握するため、「村民」及び「中学生」を対象としたアンケート調査を実施しました。

(1) アンケート調査の概要

1) 南箕輪村都市計画マスタープランに関するアンケート調査

村民を対象とした「南箕輪村都市計画マスタープランに関するアンケート調査」（以下、「村民アンケート調査」という。）の実施概要は以下のとおりです。

表 2-7 南箕輪村都市計画マスタープランに関するアンケート調査の実施概要

調査対象者	南箕輪村在住の満 18 歳以上の村民 1,400 人
対象者の抽出方法	無作為抽出
調査期間	配布：令和 6 年（2024 年）12 月 10 日（火） 回答期限：令和 6 年（2024 年）12 月 22 日（日）
配布・回収方法	配布：郵送による配布 回収：① 郵送による回答（回収） ② インターネット(Web)による回答（回収）
配布・回収数	配布数：1,400 人 回収数：572 人（回収率：40.9%）

2) 南箕輪村のむらづくりに関するアンケート調査

中学生を対象とした「南箕輪村のむらづくりに関するアンケート調査」（以下、「中学生アンケート調査」という。）の実施概要は以下のとおりです。

表 2-8 南箕輪村のむらづくりに関するアンケート調査の実施概要

調査対象者	南箕輪中学校 1 年生の生徒 165 人
調査期間	配布：令和 6 年（2024 年）12 月 4 日（水） 回答期限：令和 6 年（2024 年）12 月 13 日（金）
配布・回収方法	学校を通じた配布・回収
配布・回収数	配布数：165 人 回収数：147 人（回収率：89.1%）

(2) 村民アンケート調査結果

1) 南箕輪村への居住意向

本村への居住意向をみると、「今後も住み続けたい」が75.7%を占めており、その理由としては「災害が少なく、安心して暮らせる」(70.4%)、「緑が多く、自然環境に恵まれている」(60.0%)、「村の雰囲気がよく、景観が整っている」(50.6%)が上位を占めています。

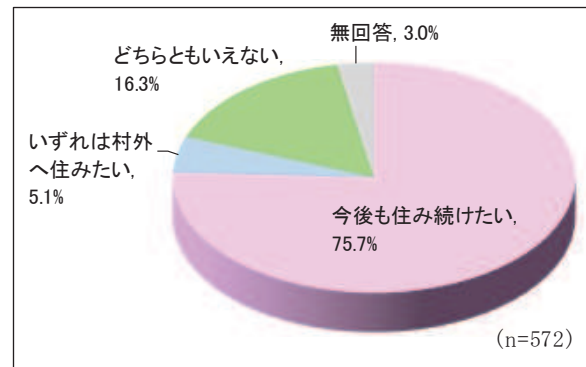


図 2-44 南箕輪村への居住意向

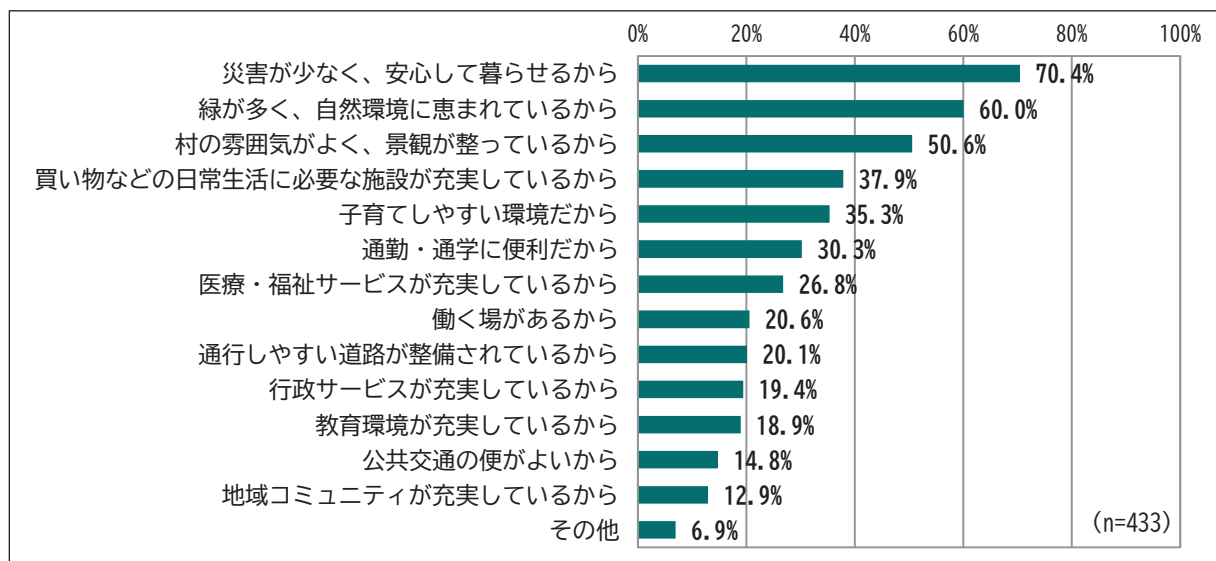


図 2-45 南箕輪村に住み続けたい理由

2) 南箕輪村の将来都市像

「将来どのような村であつたらよいか」については、「地震・大雨などの災害や、事故・犯罪に強く、安全に暮らせる村」(59.9%)、「食料品や生活用品などの買い物が便利な村」(50.4%)、「森や高原の自然が大切に守られた村」(42.5%)が上位を占めています。

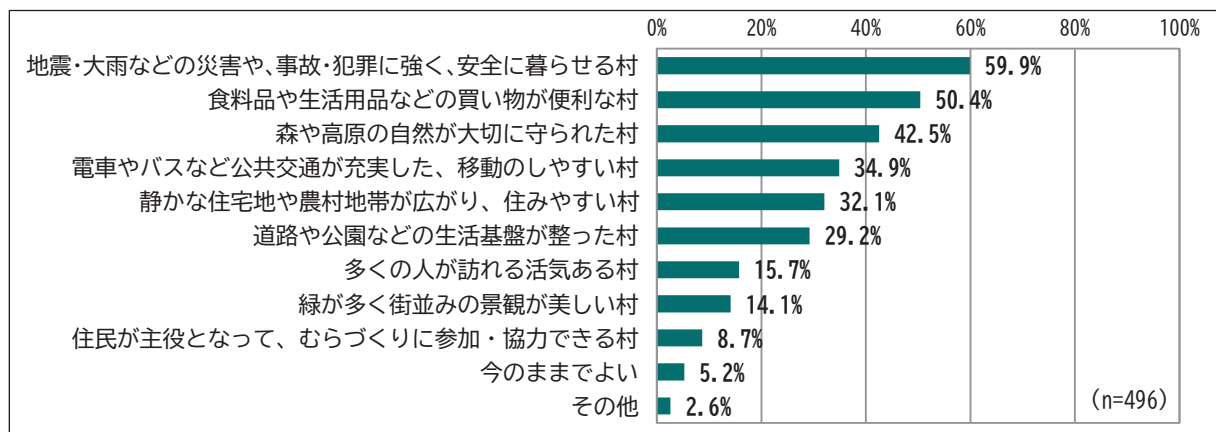
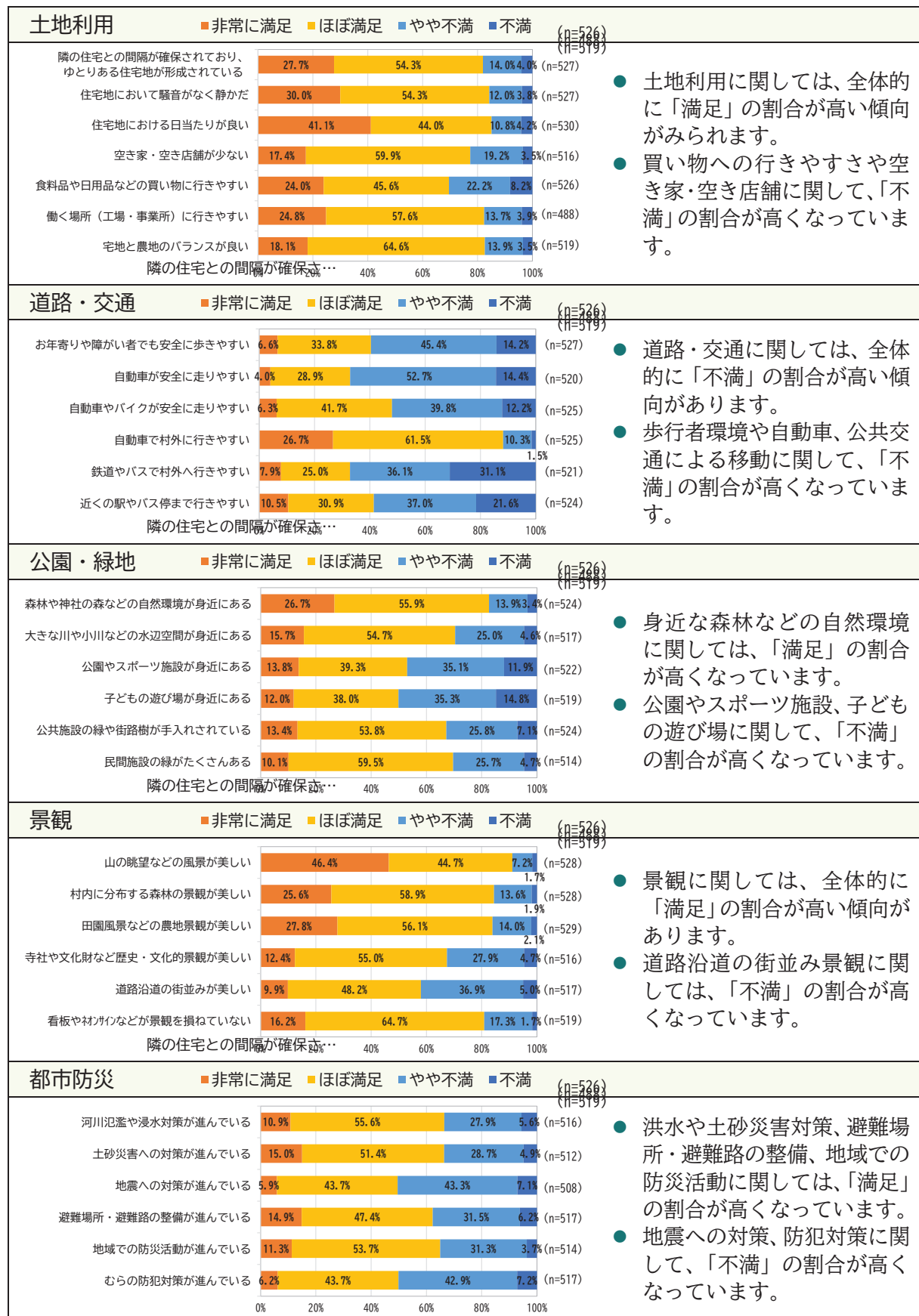
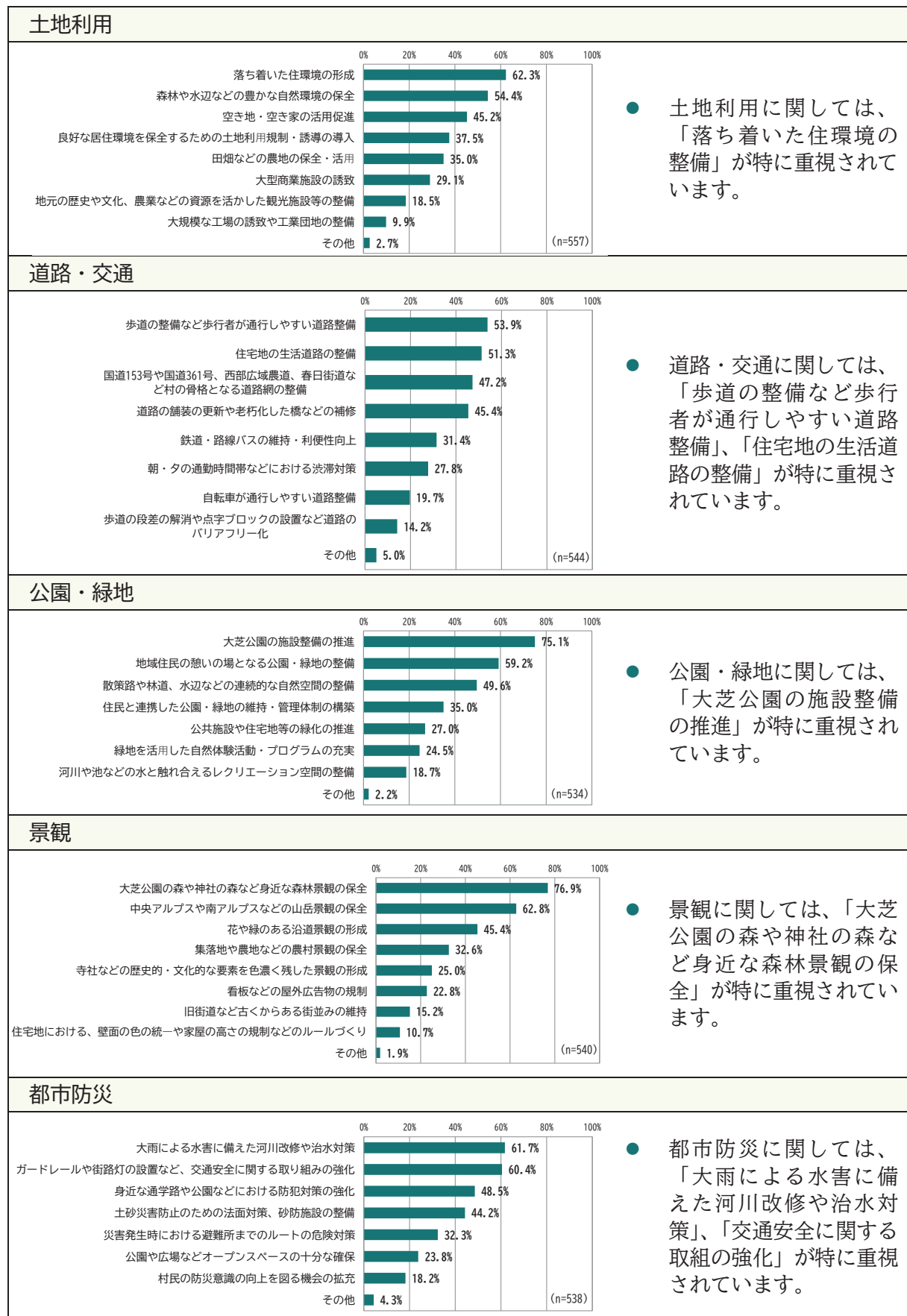


図 2-46 南箕輪村の将来都市像

3) 分野別の満足度



4) 分野別の重視する取組



5) 南箕輪村のむらづくりに関する意見

南箕輪村のむらづくりについて、それぞれの年代別に主に以下のような意見が挙げられています。

▼ むらづくりに関する年代別の主な意見

年代	分野	意見の要旨
10 歳代	道路・交通	● 道路の老朽化や街灯が少ないところがあり、整備してほしい
	子育て	● 子どもたちが楽しく安全に暮らせて、住み続けたいと思える村にしてほしい
20 歳代	道路・交通	● 住宅地の道が狭いため交通安全のために広く整備して欲しい
	景観形成	● 今の景観を維持しながら、今後も人口増加していくための住環境を整えて、南箕輪村らしさが残るようなむらづくりをしてほしい
	子育て	● 若い人が多い村だからこそ、より子育てを安心して地域で見守るようなむらづくりをこれからも進めてほしい
30 歳代	公園・緑地	● 大芝公園は南箕輪村の財産であり、緑や自然を大切にしてあたたかみのある穏やかな村でよいと思う
	子育て	● もっと子育てしやすい村にほしい ● 子どもがのびのび遊び暮らせるむらづくりをしていただけるとありがたい
	交流	● 園児や小学生が高齢者や地域の人と交流する機会や場がもっとあれば良い
40 歳代	土地利用	● 一定の地区に偏った急激な人口増加とならないよう、計画性があるとよい
	道路・交通	● 通勤・通学で駅を利用するが、駅までのアクセスが悪く、バスもなく遠いので自動車で送迎している
	公園・緑地	● 子どもが遊び、地域住民が気軽に集える公園のような場所が少ないと感じる
	子育て	● 人口が増えており、子育て世代が多く暮らしているため、他の市町村にはない様な子育て世帯へのサービス（支援）があると助かる
50 歳代	土地利用	● 伊那市や箕輪町に隣接している利便性、住宅地が集中し、社会サービスのコストが低く抑えられる事が南箕輪村の強みであり、無理に村内を整備するよりも周囲を効果的に利用しながら、住民に対して徹底した負担軽減を図ることが周辺市町村から移住者を呼び込み続ける最善策だと思う ● 住環境はとても良く、少し田舎でもありながら近くにスーパー・ホームセンター・飲食店もあり1つの理想形だと思う
	子育て	● 子どもたちが将来、また村に戻って働いて世帯を持って家を建て替えて定住してという循環が自然と生まれるような雰囲気の後押しする魅力的な都市計画であってほしい
60 歳代	道路・交通	● 早めに運転免許証を返納したいが、病院や買い物に行くのに困らないようにしてほしい
	公園・緑地	● 景観が良い自然が豊かなだけでは生活ができないため、子育て世帯ばかりに力を入れずに高齢者にもやさしいむらづくりをしてほしい
	交流	● 転入された方々のパワー、エネルギー、願いや創意を生かし、伝統もつなぎつつ、豊かな自治活動が各地で展開されることを強く願う
70 歳以上	道路・交通	● バスの不便さ、最寄り駅までの交通手段を考えると生活の不安は大きく、村内バスを利用しても村外とのつながりはスムーズでは無く、ますます高齢化と孤独化が進む将来に向けて、公共交通手段を公の面で考えていただきたい
	交流	● 若い人が増えてどんどん新しくなってゆくのは嬉しい事だが、地域の付き合いが薄くなって寂しい ● 村の魅力を若い世代が実感するむらづくり、若い世代の子ども、地域活動への参画

(3) 中学生アンケート調査結果

1) 南箕輪村の魅力や課題・改善点

本村の魅力や課題・改善点について、自由記述による回答結果を要約して以下のとおり整理しました。

本村について、豊かな自然と温かいコミュニティを基盤とした「住みやすい村」として評価されています。今後のむらづくりにおいては、この強みを維持しつつ、特に多くの意見が寄せられた娯楽・商業施設の拡充、公共交通機関の利便性向上、通学路の安全確保が重要な課題となります。また、公共施設の利用促進に向けた料金体系の見直し検討、自然環境の保全と利活用などの取組が求められています。

▼ 南箕輪村の魅力

充実した教育環境	● 保育園から大学まで村内に教育機関が揃っている
豊かな自然と良好な居住環境	● 自然が豊かでありながらお店もあり、都市機能と自然がバランスよく共存している ● 空気が澄んでいて綺麗であり、静かで穏やかな住環境がある ● 大芝高原は自然を満喫できるだけでなく、イベントや施設が充実した憩いの場となっている
高い安全性と治安	● 治安が良く、事件や事故が少ない ● 災害が少なく、安心して暮らせる
温かいコミュニティ	● 村民が温かく、優しく接してくれる
インフラや施設利便性	● 道が広くインフラがしっかり整備されている ● コンビニの数が多く、広い駐車場がある ● 村の図書館が充実している

▼ 南箕輪村の課題・改善点

娯楽・商業施設等の不足	● ゲームセンター、ショッピングモールといった若者が身近に利用できる娯楽施設や大型商業施設が少ない ● 身近に気軽に利用できる公園が少ない ● 買い物やレジャーのために村外に出る必要があり、村内での選択肢が少ない
交通利便性と安全性	● バスや電車などの公共交通機関が少なく、交通の便が悪い ● 通学路には道が狭い場所や、街灯が少なく夜間に暗くなる場所がある
施設利用料金	● 体育館などの公共施設の利用料金が低い
環境問題	● 工場などを整備する際に自然環境の保全に配慮してほしい

2) 南箕輪村の住みやすさ

本村の「住みやすさ」について、選択式による回答結果と自由記述による回答理由を要約して以下のとおり整理しました。

「住みやすい」の割合が約6割を占めており、「住みにくい」の割合を大きく上回っています。

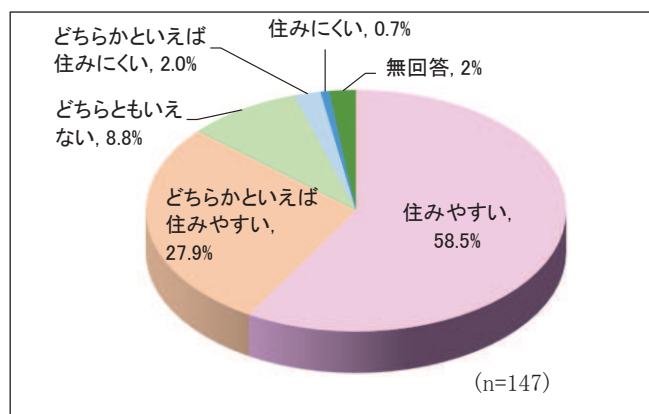


図 2-47 南箕輪村の住みやすさ

▼「住みやすい」と回答した理由

豊かな自然と良好な環境	● 豊かな自然に恵まれた環境がある ● 静穏な居住環境が確保されている ● 混雑が少なく、ゆとりある居住環境が確保されている
安全・安心と居住性	● 事故や事件が少なく、犯罪もあまりないため、安心して生活できる ● 災害が少ない ● お店や施設が比較的揃っている ● 小中学校から大学まで学校が近くにあるため、通学に便利
整備された交通と移動のしやすさ	● 道が広く、通学路がしっかり整備されており、車で出かけやすい ● 道路があまり混まず、スムーズに移動できる ● 学校へのバスがあることや、横断歩道で車が止まってくれる
温かい人間関係と暮らしやすさ	● 近所の人が優しく、安心できる ● 特に不便な点がなく、困ることが少ない ● 物価が比較的安く、人が多すぎない ● 義務教育にも力を入れていて、安心して暮らせる

▼「住みにくい」と回答した理由

娯楽・商業施設の不足	● 近くに遊びに行ける場所が少ない
交通手段への依存	● どこかへ行くのに車が必要であり、バスの運行状況が分かりにくい

▼「どちらともいえない」と回答した理由

利便性と自然のトレードオフ	● 自然が豊かで空気が美味しいが、買い物や勉強、遊ぶ場所が少ない
買い物環境の課題	● 特定の買い物をしたい場合、村内では手に入らず、伊那市など村外まで行く必要がある ● 必要なものがすぐには買えるお店が少ないため、不便 ● コンビニはあるが、服屋やゲームセンターなどが無い
交通手段と移動の課題	● 車があれば住みやすいが、若年者や高齢者など車がない人にとっては住みにくい ● 自然は良いが、遊ぶ場所が遠い
立地による差	● 家を建てる場所によってはお店から遠くなる可能性がある

3) 南箕輪村への居住意向

本村への「居住意向」について、選択式による回答結果と自由記述による回答理由を要約して以下のとおり整理しました。

「住みたい」の割合が約4割、「他のところに住みたい」が約3割、「わからない」が約3割となっています。

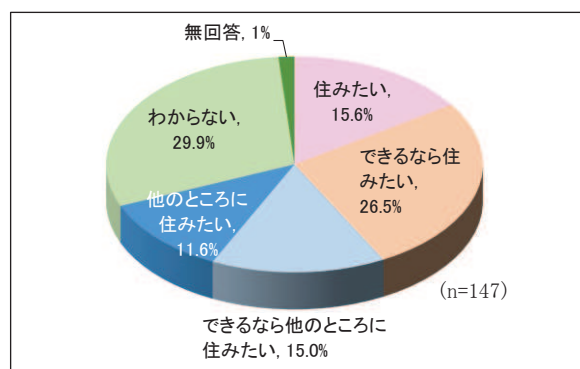


図 2-48 南箕輪村への居住意向

▼ 南箕輪村に「住みたい」と回答した理由

生活利便性と環境の良さ	● お店がたくさんあって便利 ● 保育園が近いなど子育て環境が良い ● 都会よりも住み心地が良い ● 全体的に住みやすく、空き地が少ないなど居住環境が良い
豊かな自然と安全・安心	● 自然が豊かで空気が非常にきれい ● 災害の被害が少ないため安心できる
地元への愛着と人間関係	● 故郷への愛着と安心感、慣れ親しんだ環境のため ● 親や家族が近くにいる、友達が多い、知り合いが優しい ● 就職先が近ければ住み続けたい

▼ 「他のところに住みたい」と回答した理由

買い物環境の不便さ	● 就業機会や商業施設が不足しており、買い物が不便 ● 娯楽やショッピングの選択肢が少ない
多様な経験と好奇心	● 他の県や都会の生活を知りたい ● 様々な暮らしを経験したい ● 異なる景色や街並みを見たい

4) 南箕輪村に住み続けるために必要なこと

本村に「住み続けるために必要なこと」について、自由記述による回答結果を要約して以下のとおり整理しました。

生活環境と施設の充実	● お店や商業施設を充実 ● 公園やスポーツ施設など、遊べる場所や楽しめる公共施設を充実 ● 働きやすい環境とアパートやマンションなどの居住環境を整える
雇用の創出と多様化	● 村内で働ける場所の確保 ● 就職しやすい環境や、様々な職種の選択肢の確保
交通インフラの改善	● 電車やバスなどの交通手段の充実 ● 交通アクセスの改善や歩道の整備
自然環境と景観の維持	● 身近に利用できる公園の整備 ● 落ちているゴミの清掃など、村を綺麗に保ち続ける
安全・安心な居住環境の確保	● 村民が安心して過ごせる環境の確保
村の魅力向上と交流	● 村のPR活動やSNSを使った紹介 ● 大芝祭りのような誰もが参加できる賑わうイベントの開催 ● 住民間の交流を深める場所の創出
若者・子育て世代への支援	● 若い世代が魅力的だと感じる場所の創出 ● 子どもが遊べる場所の拡充 ● 子育て世代への補助・支援

5) 南箕輪村の将来像

本村の「将来像」について、選択式による回答結果と自由記述による回答を要約して以下のとおり整理しました。

「自然が大切に守られた村」(61.1%)、「食料品や生活用品などの買い物が便利な村」(57.6%)、「災害や事件が少なく安心して暮らせる村」(43.8%)、「道路や公園などが整った村」(41.0%)が上位を占めています。

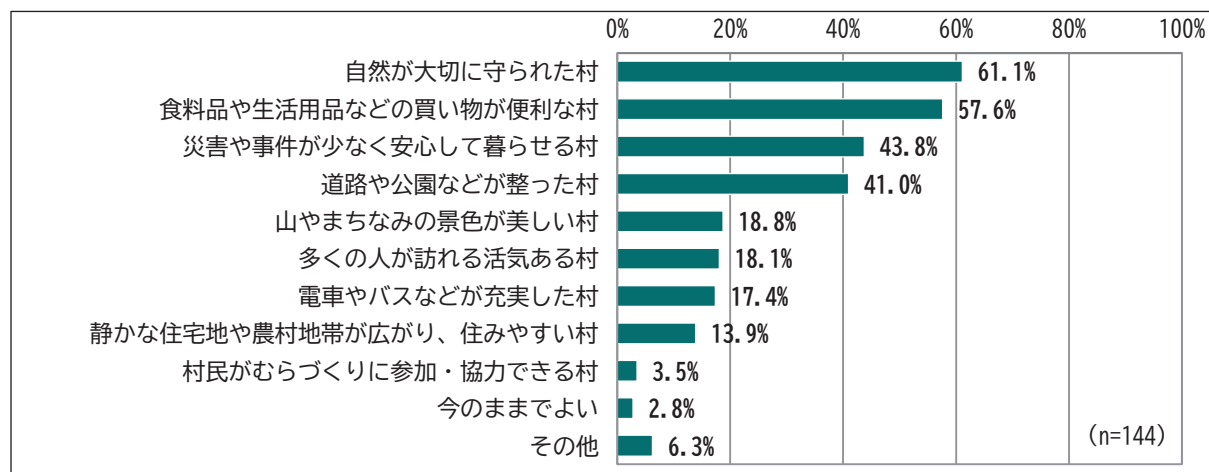


図 2-49 南箕輪村の将来像

▼ 将来像を実現するために取り組みたいこと

居住・教育環境の改善	● 一つの場所で様々なものが揃う利便性の高い場所の確保 ● 村内での娯楽、遊び場の選択肢の拡充 ● 学校のトイレのリニューアルや校庭・校舎の整備などの教育環境の改善
道路・交通の利便性向上	● 車がすれ違いやすい広い道路やきれいな道路の整備 ● 村内の移動や村外からのアクセスを支える電車やバスなどの公共交通の利便性向上
公園・緑地の充実と自然環境の保全	● 子どもたちが安全に楽しく遊べる公園の整備 ● 南箕輪村の最大の魅力である豊かな自然環境の保全
安全・安心なむらづくり	● 防犯対策の強化（防犯カメラの増設、夜間の道路の明るさ確保、犯罪の発生防止など）
村民参画と交流の促進	● 年齢に関係なく楽しめるイベントの開催 ● 村民同士の交流を深めるためのイベントの開催 ● スポーツを通じた地域交流

2-5. 都市計画上の主要課題

(1) 旧計画の評価・検証

都市計画上の主要課題の設定に先立ち、平成19年（2007年）3月に策定された旧計画における分野別の整備方針（基本的な考え方）に対する現状及び課題を整理しました。

表 2-9 旧計画における分野別の整備方針（基本的な考え方）に対する現状と課題

分野	旧計画における分野別の整備方針(基本的な考え方)	現状と課題
土地利用	- 住宅や商業などの都市的土地利用と農地や樹林地等の自然系の土地利用の区分 - 住宅や工業・商業などとの混在を防止するため、用途地域等による土地利用の明確化 - 自然を身近に感じることができる良好な住宅地の形成	- 用途地域外における農地転用が多く、人口増加に寄与する一方、農地が減少しており、優良農地の保全が求められる - 都市計画道路の廃止・変更(H29.3)に伴う用途地域の変更が行われ、用途地域指定(住宅・商業・工業系)による土地利用の誘導を推進 - 国道153号や国道153号伊那バイパス、(主)伊那インター線などの幹線道路沿線において、商業・業務施設等が集積
道路・交通施設整備	- 安心・安全に行動できる道路や公共交通網、歩行者空間の整備 - 村内や近隣都市への移動をするための道路基盤や交通ネットワークの充実	- 国道153号伊那バイパス等の都市計画道路の整備が進んでいるが、全体の改良率は県内平均を大きく下回っており、道路ネットワークの機能強化に向けた都市計画道路の見直し及び計画的整備の推進が求められる - 南箕輪村地域公共交通計画を策定(R7.3)し、人口動向や住民ニーズを踏まえた公共交通(バス)の見直しや利用促進等に向けた取組を実施
公園・自然環境保全と緑地整備	- 本村の財産である自然環境の保全 - 水や緑と親しむ場や機会の創出	- 緑地や森林整備等に関する計画を策定・改定し、保全・創出・活用に向けた取組を推進 - 南箕輪村緑の基本計画(H19.3 策定) - 南箕輪村森林整備計画(R7.4 改定) - 大芝高原の整備に関する計画を策定し、観光やレクリエーション、交流を支える施設が集積し、災害時に広域防災拠点としての役割を果たすための整備を推進 - 大芝高原将来ビジョン(R4.6 策定) - 南箕輪村大芝高原施設整備計画(R5.7 策定) - 大芝高原森林づくり実施計画(R6.12 策定) - 村民アンケートでは、公園やスポーツ施設、こどもの遊び場が身近にないことに不満を感じている割合が高い傾向にあり、身近な公園・緑地の適正配置が求められる
景観形成	- 住宅地や公共施設など、良好な街並みの形成 - 樹林地や田園風景などの自然景観の保全 - 南箕輪らしい街並みの形成	- 豊かな自然と歴史、文化を育んだ良好な景観を守り、後世に継承するため、H27.4に景観行政団体となり、南箕輪村景観計画を策定(H27.7) - H27.7.1から南箕輪村景観条例と景観計画を全面施行し、景観法に基づく届出制度の運用を開始 - 村民アンケートでは、村の景観に関して全体的に満足度が高い傾向にあるものの、道路沿道の街並み景観に関しては満足度が比較的低い傾向になっており、幹線道路沿道などにおいて良好な景観を形成していくことが求められる
都市防災	- 災害に強く、被害を最小限に抑える都市基盤づくり - 万一の際も、村民の生命を守り、迅速な復旧体制の確立	- 防災に関する計画を策定・改定し、災害による被害を最小限に抑えるための防災体制づくり等を推進 - 南箕輪村強靱化計画(R3.3 策定) - 南箕輪村地域防災計画(R7.3 改定) - 村民アンケートでは、地震への対策に関して満足度が低い傾向にあり、大規模地震災害に対する防災・減災対策の一層の推進が求められる
上下水道整備	上下水道の整備や河川改修の計画的推進による生活利便性及び安全性、快適性の向上	- 人口増加等による水需要の増加に対応するため、水道整備を実施(水道事業の第5次拡張(H26.4)) - 持続可能な下水道事業の実現を図るため、経営・維持管理の視点から農業集落排水処理事業と公共下水道を統合(H24年度) - 老朽化が進んでいる上下水道施設について、安定した水道サービスと排水機能維持するため、計画的な更新・改修が求められる

(2) 分野別の都市計画上の主要課題

分野別の特性・課題、都市計画に関する住民意向等を踏まえ、都市計画上の主要課題を以下のとおり整理しました。

表 2-10 都市計画上の主要課題(1/2)

分野	都市計画上の主要課題
土地利用	● 無秩序な市街地の拡大抑制と優良農地の保全 用途地域指定区域外での農地転用が多く、その大半が住宅用地への転用となっているため、無秩序な市街地の拡大抑制と計画的な土地利用誘導による優良農地の保全が求められます。 ● 計画的な住宅立地の誘導 用途地域指定区域外での新築が多い傾向にあるため、人口動向を踏まえた計画的な住宅立地の誘導による良好な住宅環境の形成が求められます。 ● 空き家等の適切な管理・活用 将来的な人口減少の進行により、空き家の増加が懸念されるため、適切な管理や利活用が求められます。 ● 商業・サービス機能の充実と利便性向上 村民アンケートでは、食料品や日用品の買い物に行きやすいかという点での不満が高い傾向にあり、中学生アンケートでも娯楽・商業施設の不足が指摘されているため、商業・サービス機能の充実と利便性向上が求められます。 ● 工業団地の機能維持・強化と企業誘致の推進 若者や子育て世代の定住と多様な産業・雇用機会の創出を図るため、工業団地の機能維持・強化と企業誘致の推進が求められます。
道路・交通施設整備	● 東西方向の交通インフラの強化 村内の幹線道路網は南北方向が充実しているのに対して、東西方向がやや脆弱となっています。村民アンケートでは、道路・交通に関して全体的に満足度が低い傾向にあることから、東西方向の交通インフラの強化が求められます。 ● 都市計画道路の見直し及び計画的整備の推進 都市計画道路の改良率が県内平均を大きく下回っているため、整備率改善と道路ネットワークの機能強化に向けた都市計画道路の見直し及び計画的整備の推進が求められます。 ● 幹線道路・生活道路・通学路の安全確保に向けた整備の推進 幹線道路の交差点周辺における交通事故が多く、生活道路でも事故の発生がみられます。村民アンケートや中学生アンケートでは、歩道の整備など歩行者が通行しやすい道路整備や住宅地の生活道路の整備、通学路の安全確保などが重視されている傾向があることから、幹線道路・生活道路・通学路の安全確保に向けた整備が求められます。 ● 公共交通の利用促進及び利便性向上 JR 飯田線及びバスの利用者数は減少傾向にあります。また、村民アンケートでは、公共交通による移動に関して満足度が低い傾向にあるため、交通結節点の機能強化や鉄道とバスの連携など、公共交通の利用促進及び利便性向上に向けた取組が求められます。

表 2-11 都市計画上の主要課題(2/2)

分野	都市計画上の主要課題
自然環境保全と公園・緑地整備	● 自然環境の保全と観光・交流の促進に向けた利活用の推進 村民アンケートや中学生アンケートでは、森林や水辺などの豊かな自然環境の保全が重視されています。また、大芝高原などの森林区域はレクリエーションや自然観察の場としての役割を果たしており、自然環境の保全と観光・交流・レクリエーションの場としての利活用の推進や松くい虫等の病虫害への対策が求められます。 ● 身近な公園・緑地の適正配置 公園は村内の各地区において整備されているものの、村民アンケートでは、公園やスポーツ施設、こどもの遊び場が身近にないことに不満を感じている割合が高い傾向にあり、将来の人口動向などを踏まえながら、身近な公園・緑地の適正配置が求められます。 ● 大芝公園の機能向上 村民アンケートや中学生アンケートでは、大芝公園の施設整備の推進が重視されており、若い世代も気軽に利用できる公園として機能向上などが求められます。
景観形成	● 伊那谷の雄大な美しい景観の保全 村民アンケートや中学生アンケートでは、大芝高原や神社の森など身近な森林景観や、中央アルプスや南アルプスなどの山岳景観、扇状地の田園景観などの保全が重視されており、伊那谷の雄大な美しい景観を保全していくことが求められます。 ● 幹線道路沿道における良好な景観の形成 村民アンケートでは、村の景観に関して全体的に満足度が高い傾向にあるものの、道路沿道の街並み景観に関して満足度が比較的低い傾向にあることから、幹線道路沿道などにおいて良好な景観を形成していくことが求められます。
都市防災	● 土砂災害・洪水災害リスクへの対応 用途地域指定区域内の河岸段丘や斜面地で土砂災害警戒区域が指定されており、天竜川、大泉川、大清水川沿岸では広範囲に洪水浸水想定区域が指定されています。村民アンケートでは、土砂災害や洪水災害への対策に関して満足度が高い傾向にあり、土砂災害・洪水災害に対する防災・減災対策を引き続き、推進していくことが求められます。 ● 大規模地震災害リスクへの対応 本村は「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されているほか、伊那谷活断層による大規模災害の発生が懸念されています。村民アンケートでは、地震への対策に関して満足度が低い傾向があり、大規模地震災害に対する防災・減災対策の一層の推進が求められます。 ● 避難所や避難場所の維持・確保及び防災拠点の機能強化 本村内に存在している災害リスクを踏まえ、各災害に対応した避難所や避難場所、福祉避難所を維持・確保していくことが求められます。また、広域防災拠点としての役割を果たしている道の駅「大芝高原」の防災機能向上に向けた整備が求められます。
上下水道整備	● 上下水道施設の維持管理と公共下水道区域外への対応 既存の上下水道施設の適切な維持管理に加えて、公共下水道事業計画区域外の地域において、浄化槽の設置により生活排水を適切に処理していくことが求められます。 ● 老朽化施設の更新 老朽化が進んでいる上下水道施設について、安定した水道サービスと排水機能を維持するため、計画的な更新・改修が求められます。 ● 耐震化 災害に強く持続可能な上下水道システムの構築に向け、対策が必要な管路等について計画的に耐震化を進める必要があります。